



**Kodak**

# i5000 シリーズスキャナー

TWAIN アプリケーション用  
スキャンセットアップガイド

# TWAIN データソースの使用

---

[Scan Validation Tool] の起動 .....	2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス .....	2
TWAIN データソースの使用 .....	4
開始方法 .....	4
[設定] ショートカットの変更または作成 .....	5
コダックスキャナーメインウィンドウ .....	7
イメージ設定ウィンドウ .....	11
プレビューウィンドウ .....	12
[一般] タブ .....	14
[サイズ] タブ .....	16
[調整] タブ : 白黒 .....	19
[調整] タブ : カラー / グレースケール .....	21
[拡張機能] タブ .....	23
詳細イメージセットアップ .....	28
[詳細] タブ .....	28
[書類タイプの設定] タブ .....	31
例 1 : 書類の色量を基にカラー / グレースケールと 白黒スキャンを切替え .....	33
書類の各面に対する複数イメージの作成 .....	35
書類の各面に対する複数設定の作成 .....	37
デバイス設定ウィンドウ .....	39
デバイス - [一般] タブ .....	40
デバイス - [プリンタ] タブ .....	44
デバイス - [スタッキング] タブ .....	48
スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定 .....	50
デバイス - [重送検知] タブ .....	53
デバイス - [パッチ] タブ .....	56
[診断] ウィンドウ .....	57
診断 - [一般] タブ .....	58
診断 - [デバッグ] タブ .....	59
診断 - [ログ] タブ .....	60

本ガイドでは TWAIN データソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します。これらの機能は、使用しているスキャンアプリケーション(コダックスキャプチャプロソフトウェアなど)のユーザインターフェースでも選択できます。

本ガイドでは、デフォルトの TWAIN データソースインターフェースについて説明します。ご使用のアプリケーションで、目的に合わせて TWAIN データソースのユーザインターフェースを変更することができます。アプリケーションプロバイダが TWAIN データソースのインターフェースをカスタマイズしている場合は、このガイドで説明しているデフォルト画面とは異なる場合があります。

## [Scan Validation Tool] の起動

1. [ スタート ]>[ プログラム ]>[Kodak]>[Document Imaging]>[Scan Validation Tool] を選択します。



2. [ ドライバの種類 ] として [TWAIN] を選択し、[ ドライバ ] として [KODAK Scanner i5000] を選択します。

[Scan Validation Tool (スキャンバリデーションツール)] ダイアログボックスが表示されます。



3. いずれかの [ イメージ表示モード ] ボタンを選択し、イメージプレビューパネルを表示します。



## [Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT)はコダックが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェースを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool を使用すると、TWAIN データソースを使用してスキャナーの機能を検証できます。



## [ ツールバー ] ボタン



**セットアップ** — 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。



**保存先** — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[ **イメージをファイルに保存** ] を選択した場合にのみ利用できます。



**スキャン開始** — 入力トレイにある原稿をスキャンします。



**1 ページスキャン** — 1 ページだけスキャンします。



**停止** — スキャンを終了します。



**ライセンスキー** — [ ライセンスキー ] ウィンドウを表示します。



**表示モード (画像なし)** — イメージビューアウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



**表示モード (1 画像)** — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



**表示モード (2 画像)** — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



**表示モード (4 画像)** — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



**表示モード (8 画像)** — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。



**バージョン情報** — Scan Validation Tool のバージョンを表示します。



**転送モードセレクト** — *TWAIN 専用*。上級ユーザ向けです。Scan Validation Tool の使用時は、[ **メモリ** ] または [ **ファイル転送** ] 方法を選択できます。



**UI セレクトの表示** — これは、コダックサービスが使用する詳細オプションです。

**指定数ごとに表示** — スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

**[ 合計 ]** — 現在の [ Scan Validation Tool ] (スキャン検証ツール) セッションでスキャンされた画像の総数を表示します。

- TWAIN データソース (または ISIS ドライバ) にアクセスするには、[ Scan Validation Tool ] ダイアログボックスの **セットアップ** アイコンをダブルクリックします。

**[ 最後のファイル ]** — 最後に保存した画像の完全パスとファイル名を表示します。

## TWAIN データソースの使用

コダック i5000 シリーズスキャナーは、さまざまなイメージを提供できます。ご使用のスキャンアプリケーションと連携動作する、TWAIN データソースを使用することで様々なイメージを提供できます。TWAIN データソースは、スキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用すると、コダックスキャナーメインウィンドウに [設定のショートカット] が一覧表示されます。それぞれの [設定のショートカット] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。[設定のショートカット] には、さまざまな原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの [設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、請求書をスキャンする場合は [設定のショートカット] を選択するだけでスキャンできます。詳細は、この章の後半にある「新しい設定のショートカットの作成」および「イメージ設定の変更」を参照してください。

## 開始方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャン処理を実行することにあります。スキャナーメインウィンドウから [設定のショートカット] を選択し、[OK] / [スキャン] を選択するだけで実行できます。

このスキャナーでは既にいくつかの [設定のショートカット] が定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [設定のショートカット] のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

設定するオプションの大半は、以下の 2 つのウィンドウにあります。

- **イメージ設定** : コダックスキャナーメインウィンドウの [設定] ボタンをクリックすると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] タブを使って、イメージ処理パラメータを設定することができます。また、[デバイス] ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、[詳細イメージセットアップ] アイコンをクリックして詳細設定ができます。
- **デバイス設定** : [デバイス] ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。[デバイス] を選択すると、[一般] タブや [重送検知] タブが表示されます (拡張プリンタがインストールされている場合は [プリンタ] タブも)。デバイス設定ウィンドウでは、[診断] にアクセスすることもできます。

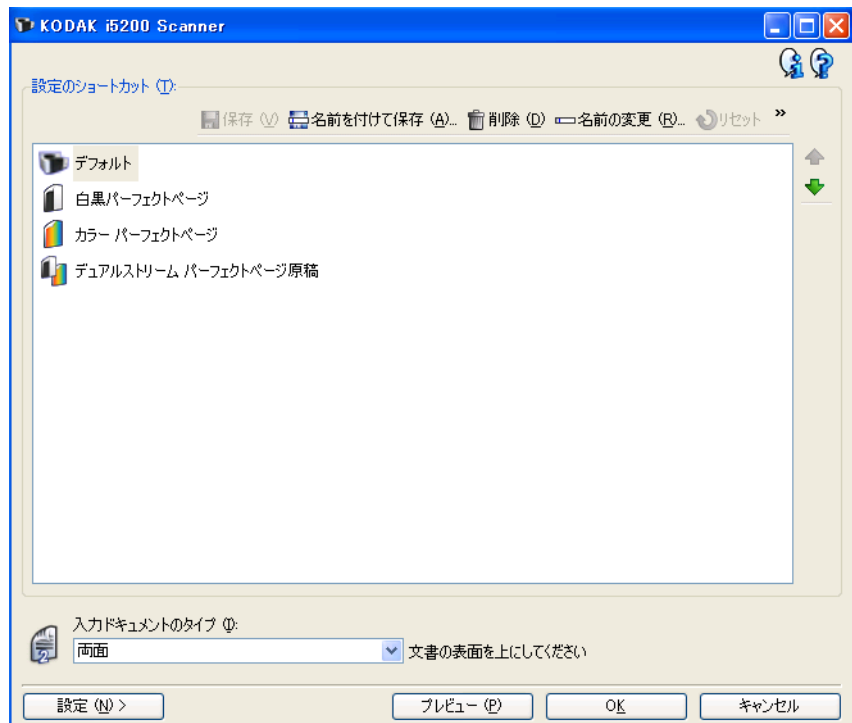
以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。コダックスキャナーメインウィンドウの各機能とオプションの詳細な説明は、「コダックスキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注：設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。このような場合、そのショートカットがコダックスキャナーメインウィンドウに斜体で表示され、その隣に < 変更済み > と表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

[OK] をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。設定のショートカットを使わないアプリケーションを利用する場合は、この質問に対して [いいえ] を選択してから、スキャンを行ってください。

## [設定] ショートカット の変更または作成

コダックスキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。

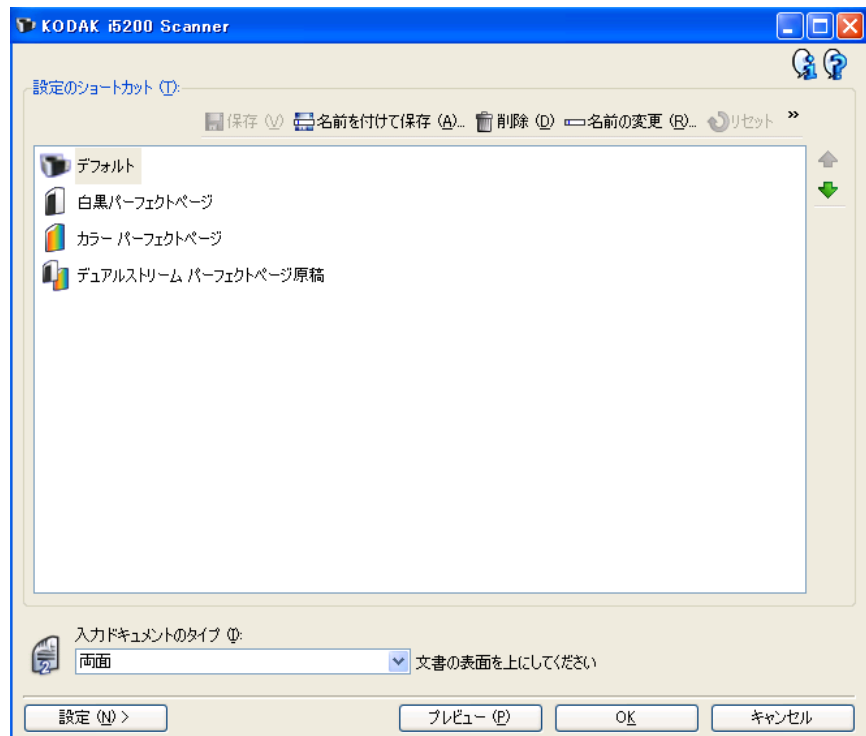


1. [設定のショートカット] リストから、あらかじめ定義されている設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力に最適な [設定のショートカット] を選択します。
2. [入カドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから、原稿の表面か、裏面、または両面のイメージを作成するかを選択します。
3. スキャナーメインウィンドウで [設定] を選択します。イメージ設定ウィンドウの [一般] タブが表示されます。

4. [一般] タブで適切なオプションを選択します。  
注：必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。
5. スキャナーの入力エレベータに原稿を 1 枚セットします。
6. 選択したオプションによってどのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、[プレビュー] をクリックします。  
注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定内容を更に調整します。
7. イメージ設定ウィンドウの [デバイス] を選択して目的のデバイス設定を選択します。
8. 各タブで、スキャナーに実行させる適切なオプションを選択します。
9. [ホーム] をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. [名前を付けて保存] を選択して [名前を付けて保存] ウィンドウを表示するか、[保存] をクリックして同じ名前で [設定] ショートカットを保存します。
11. 設定内容が分かり易い新しいショートカット名を入力して、[保存] をクリックします。

## コダックスキャナーメインウィンドウ

コダックスキャナーメインウィンドウは、スキャナーのユーザインターフェースのホームウィンドウです。[設定のショートカット]、[OK]／[スキャン]の順に選択するだけでスキャンできます。

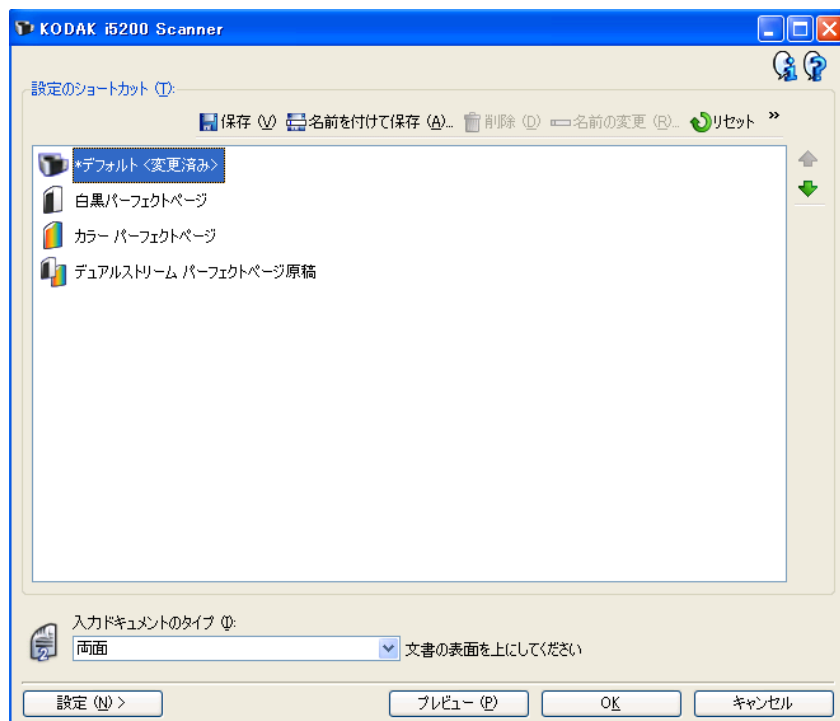


**[設定のショートカット]**— 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。次のショートカットが用意されています。

- デフォルト — スキャナーのデフォルト設定
- 白黒パーフェクトページ
- カラーパーフェクトページ
- デュアルストリームパーフェクトページ原稿



注：[設定のショートカット]の内容を変更して変更を保存していない場合、[設定のショートカット]に<変更済み>というテキストが付き、名前が斜体で表示されます（例：\* デフォルト<変更済み>）。













**入カドキュメントのタイプ** — ドキュメントのどちらの面のイメージを出力するかを選択できます。

- **両面**：原稿の両面をスキャンします。
- **片面 - 表**：原稿の表面をスキャンします。
- **片面 - 裏**：原稿の裏面をスキャンします。

注：スキャンする原稿の表面を上にして入力エレベータにセットしてください。

## アイコン

	<b>保存</b> — 選択した [ 設定のショートカット ] に対して行った変更を保存します。
	<b>名前を付けて保存</b> — [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい [ 設定のショートカット ] として保存します。
	<b>削除</b> — 選択した [ 設定のショートカット ] を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これは、ユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。
	<b>名前の変更</b> — [ 設定のショートカット ] の名前を変更します。これは、ユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。
	<b>リセット</b> — 選択した [ 設定のショートカット ] への変更で保存していない変更（例：名前が斜体で < 変更済み > が付いている）を元に戻すことができます。
	<b>復元</b> — [ 復元 ] ウィンドウを表示して、予め用意されたショートカットに対して行った変更を元に戻すことができるようにします。これは、予め用意されたショートカットが変更または削除された場合にのみ使用できます。
	<b>インポート</b> — 別の [ 設定のショートカット ] のセットをインポートして、現在の全てのショートカットを置換します。このオプションを選択すると、OS の [ ファイルを開く ] ウィンドウが表示され、インポートするショートカットセットのファイルを選択できます。
	<b>エクスポート</b> — 現在のすべての設定のショートカットをショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、OS の [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウが表示され、ショートカットセットのファイル名を指定できます。
	<b>上に移動</b> — 選択した設定のショートカットを、リスト中の1つ上の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
	<b>下に移動</b> — 選択した設定のショートカットを、リスト中の1つ下の場所に移動します。

注：

- **削除、名前の変更、復元、インポート、エクスポート**は、選択した [ 設定のショートカット ] が変更中（例：名前が斜体で < 変更済み > が付いている）の場合には使用できません。
- 設定のショートカットを移動すると、再び移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
- 別の PC に設定のショートカットを転送する場合：転送したいショートカットがある PC から、[ **エクスポート** ] を選択し、別の PC で [ **インポート** ] を選択します。
- 現在のショートカットセットに [ 設定のショートカット ] を追加する場合：
  1. **インポート**を選択してショートカットセットをロードします。
  2. 新しく [ 設定のショートカット ] を作成します。
  3. ショートカットセットを置き換えるには**エクスポート**を選択して同じ名前で保存する必要があります。

**設定** — [イメージ設定] ウィンドウで、選択した [設定のショートカット] を変更することができます。このウィンドウから、デバイス設定および診断ウィンドウにアクセスできます。

**プレビュー** — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビュー領域にスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

**OK / スキャン** — 選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

**注** : このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、コダックスキャナーメインウィンドウを閉じます。

### 情報アイコン



**バージョン情報** : スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



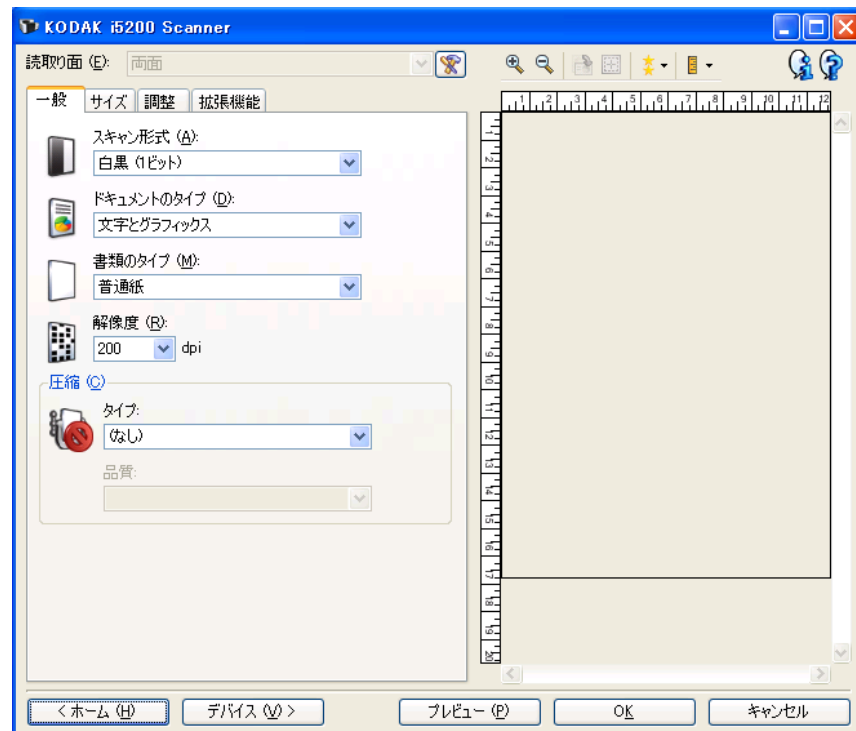
**ヘルプ** : 現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

## イメージ設定ウインドウ

このウインドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。[イメージ設定]ウインドウにはデフォルトで一般、サイズ、調整（カラー／グレースケールと白黒）、拡張機能の各タブがあります。

このセクションでは、（Scan Validation Tool で表示される）TWAIN のデフォルトインターフェースについて説明します。ホストアプリケーションは一部のタブを非表示にしたり、表示されるオプションを制限したりすることで、インターフェースを変更できます。

**読み取り面** — 設定する読み取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。









注：[読み取り面]オプションは、詳細設定が[詳細]タブで選択された場合のみ利用できます。



**詳細イメージセットアップ**：[詳細]タブを表示します。

## [ ツールバー ] ボタン

	<b>ズームイン</b> ：プレビュー領域に現在表示されているイメージを拡大します。
	<b>ズームアウト</b> ：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを縮小します。
	<b>アウトラインを回転</b> ：アウトラインを 90 度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。
	<b>アウトラインを中央に配置</b> ：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインの X 原点を調整します。
	<b>プレビューの品質</b> ：スキャン画像の品質を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>通常</b>：イメージを低解像度で表示します。</li> <li>• <b>高</b>：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、[プレビュー]ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。</li> </ul> 注：ドキュメントの内容に応じて、イメージが実際に近い表示ができる様、拡大表示が必要な場合があります。
	<b>単位</b> ：スキャナーの測定値の単位を選択します。これには、プレビューウィンドウとサイズ関連オプションが含まれます。[単位]オプションは、[インチ]、[センチメートル]、[ピクセル]が使用できます。

## プレビューウィンドウ

プレビュー領域ウィンドウに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このウィンドウにイメージが表示されます。

**アウトライン** — [原稿：マニュアル指定] または [イメージ：ドキュメントの一部] を [サイズ] タブから選択すると、現在の [アウトライン] 選択項目が表示されます。アウトラインがプレビューイメージと位置が合っていない場合は、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで動かすとカーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。
- **角**：グラフィックの四隅の 1 つにカーソルを置くと、2 つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：グラフィックの四辺の 1 つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。



- **回転**：回転のグラフィックの上にマウスカーソルを置くと、アウトラインの角度を調整できます。



**ホーム** — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

**デバイス** — [デバイス設定] ウィンドウを表示します。

**プレビュー** — スキャンを開始して、プレビューウィンドウにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。

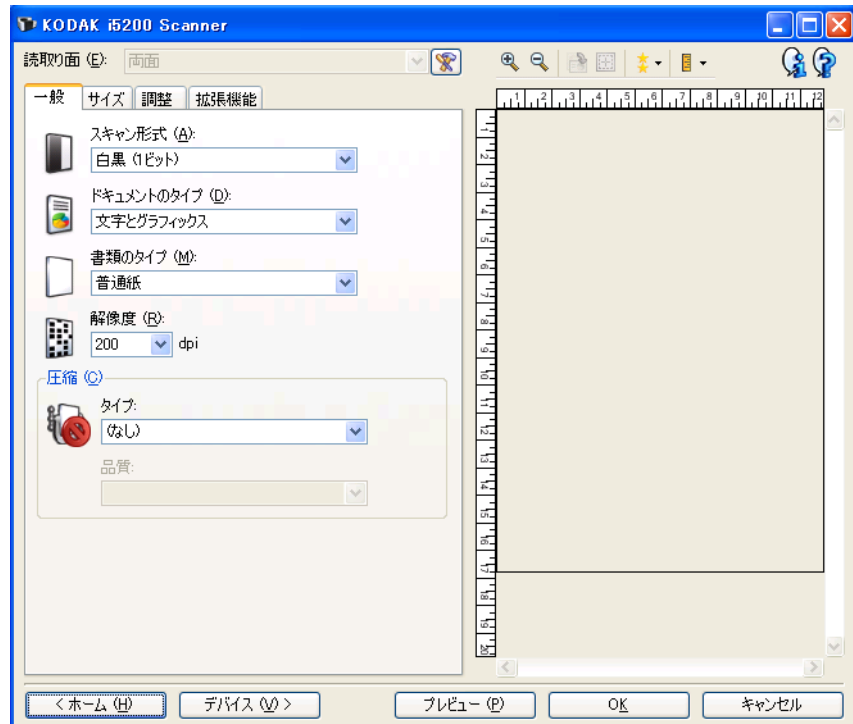
**OK / スキャン** — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、コダックスキャナーメインウィンドウを閉じます。

## [一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが含まれています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



**スキャン形式** — イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー (24 bit)** : カラーイメージを生成します。
- **グレースケール (8 ビット)** : グレースケールイメージを生成します。
- **白黒 (1 ビット)** : 白黒イメージを生成します。

注 : [スキャン方法] オプションは、[読取り面あたりのイメージ数 : 1] が [詳細] タブで選択されている場合にのみ利用できます。

**ドキュメントのタイプ** — 原稿の内容のタイプを選択します。

- **文字とグラフィックス** : 文書、グラフィック (棒グラフ、円グラフなど)、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字** : 文字原稿の場合に選択します。
- **写真** : 写真が主体の場合に選択します。

**書類のタイプ** — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙**、**薄紙**、**光沢紙**、**カードストック**、**雑誌**です。

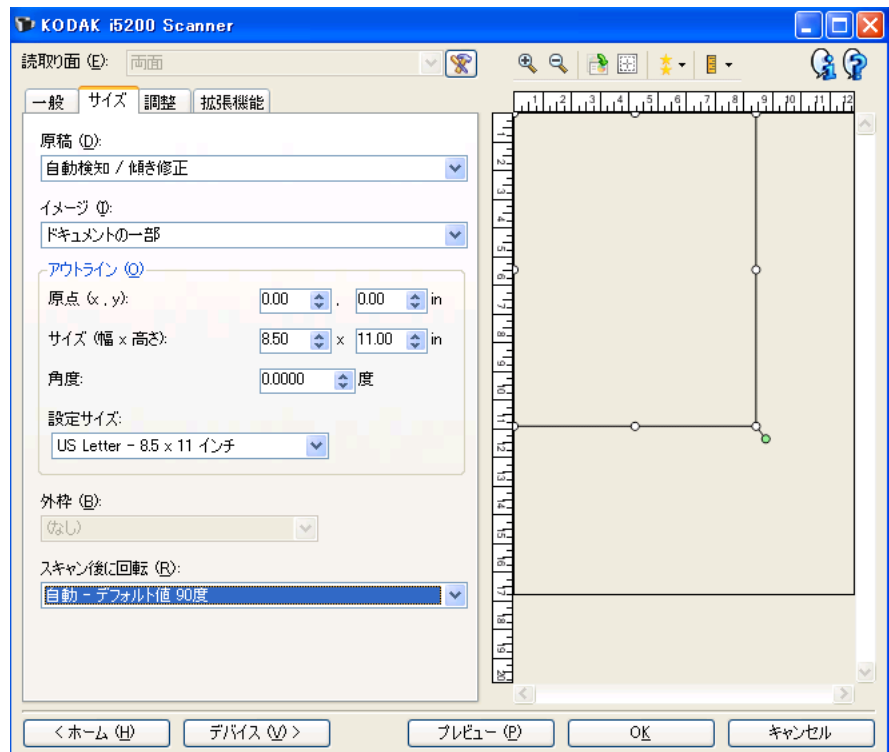
**解像度** — 解像度 (dpi) を選択します。ここで指定した値によってイメージ品質が決まります。また、スキャン時間やイメージサイズにも影響します。オプションは、100、150、200、240、300、400、600 dpi に設定できます。

圧縮 — イメージのサイズを縮小できます。

- **タイプ** : 圧縮の種類を選択します。
    - **(なし)** : 圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
    - **グループ-4** : 白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は、TIFF ファイルと組み合わせて利用されます。
    - **JPEG** : JPEG 技術を使用してカラー/グレースケールイメージを圧縮します。
  - **品質** : JPEG 圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。
    - **ドラフト** : 圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
    - **標準** : 標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
    - **高** : 一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
    - **最高** : 小さい圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
    - **高品質** : 最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。
- 注意 : このオプションはプレビューイメージには適用されません。



## [サイズ] タブ



**原稿** — スキャナーから搬送中の原稿を検知する方法を選択します。

- **自動検知 / 傾き修正** : 各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補整します。
- **自動検知** : 各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定** : [アウトライン] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズの原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

イメージ — ドキュメントのどの部分をイメージの作成に使用するかを選択します。

- **ドキュメント全体** : [ **原稿 : 自動検知 / 傾き補正** ]、[ **原稿 : 自動検知** ]、または [ **原稿 : マニュアル指定** ] を選択すると、原稿全体を返します。
- **ドキュメントの一部** : [ **原稿 : 自動検知 / 傾き補正** ] を選択すると、[ **アウトライン** ] オプションで指定する原稿の一部を捕捉します。

**アウトライン** — イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。プレビューウィンドウにアウトラインが表示されます。

• **原点 (x, y)** :

- [ **原稿 : 自動検知 / 傾き修正** ] を選択すると、(x) は原稿の左端からの距離、(y) は原稿の上端からの距離になります。
- [ **原稿 : マニュアル指定** ] を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。

• **サイズ (幅 x 高さ)** : [ **原稿 : 自動検知 / 傾き補正** ] または [ **原稿 : マニュアル指定** ] を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。

注 : アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

• **角度** : アウトラインの角度を選択できます。

• **設定サイズ** : 一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。アウトラインサイズがいずれのサイズとも一致しない場合、[ **カスタム** ] が表示されます。

注 : マウスを使用してプレビューウィンドウに表示されるアウトラインを調整することもできます。

**外枠** — イメージの端の処理を選択できます。

- **(なし)** : イメージはクロッピングされますが、小さい枠が残ります。
- **追加** : イメージの 4 辺に約 0.25 cm の黒枠が追加されます。

注 : このオプションは、[ **原稿 : 自動サイズ検知** ]、または [ **原稿 : マニュアル指定** ] で使用できます。

- **削除**：外枠を削除して、原稿内側のイメージを生成します。外枠は原稿の端のばらつきによって発生します。たとえば、原稿が完全な四角形でない場合や歪んで搬送された場合などです。

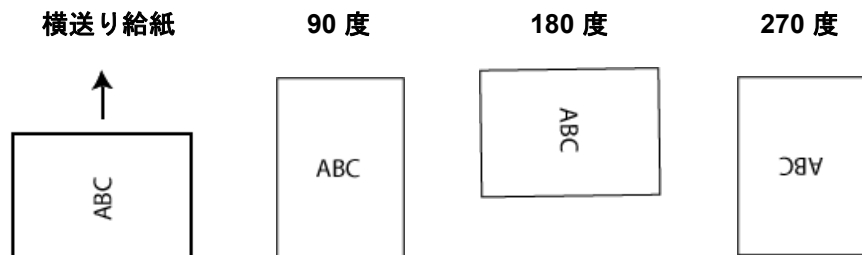
注：

- また [拡張機能] タブの [イメージの端を埋める] オプションは、イメージの端を補正して鮮明にする場合に使用できます。
- このオプションで外枠の大部分が削除できなかった場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
- このオプションは [原稿:自動サイズ検知/傾き補正] および [イメージ:ドキュメント全体] がどちらも選択されている場合のみ使用できます。

**スキャン後に回転** — スキャン後にイメージに適用される回転角度を選択できます。

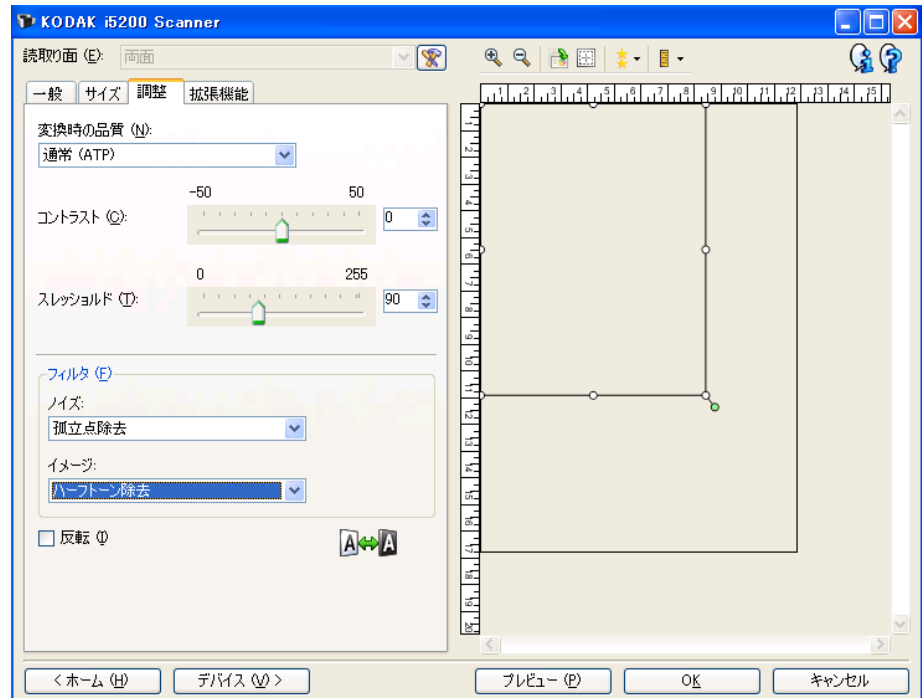
- (なし)
- **自動**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
- **自動 - デフォルト値 90 度**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 90 度回転します。
- **自動 - デフォルト値 180 度**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 180 度回転します。
- **自動 - デフォルト値 270 度**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 270 度回転します。
- **90、180、270 度**：回転する角度を指定します。

以下の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



## [調整] タブ : 白黒

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン形式] で [白黒] を選択した場合に基づきます。



**変換時の品質** — これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

- **最高 - Intelligent QC** : ベスト解析に加え、Intelligent QC (品質管理) も実行されます。設定が困難な原稿のイメージがグレースケールで生成され、ご使用のアプリケーションソフトウェアで画質を最終的に決定することができます。

注 : このオプションは、コダックキャプチャプロソフトウェアでのみ利用可能です。詳細については、ソフトウェアの説明書を参照してください。

- **最高 (iThresholding)** : 原稿ごとに解析して、最高品質のイメージを生成します。単一の設定で画質が異なる書類 (文字のかすれ、影のある背景、カラーの背景など) をスキャンすることができます。
- **通常 (ATP)** : 目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、[最高] 選択時に目標とする画質の [コントラスト] 設定が見つからない場合など、異なる設定の書類をスキャンする場合にもこの設定を使用できます。
- **ドラフト (固定)** : ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択します。このオプションは、コントラストの高い書類に最適です。

**コントラスト** — イメージをより鮮明にまたはソフトにします。この設定値を小さくすると、イメージがやわらかくなり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。オプションの範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は0です。

注：これは、**[変換の品質：最高]** と **[変換時の品質：通常]** の場合のみ使用できます。

**スレッシュホールド** — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1ビット/ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。オプションの範囲は、0～255です。デフォルトは90です。

注：これは、**[変換の品質：通常]** と **[変換の品質：ドラフト]** の場合のみ使用できます。

## フィルタ

### • ノイズ

- (なし)：ノイズフィルタを実行しません。
- **孤立点除去**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルの多数が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

### • イメージ

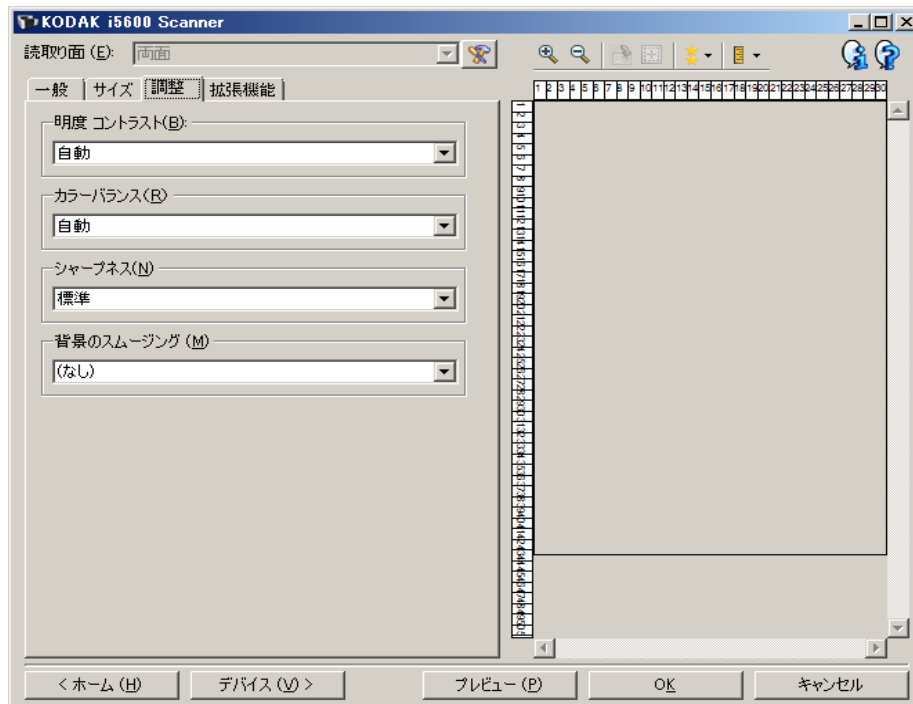
- (なし)：イメージフィルタを実行しません。
- **ハーフトーン除去**：ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストやイメージ（新聞の写真など）の見栄えを良くします。

**反転** — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

## [調整] タブ: カラー/グレースケール

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン形式] で [カラー] または [グレースケール] を選択した場合に基づきます。

注: ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



### 明度とコントラスト

- (なし)
- 自動: 各イメージを自動的に調整します。
- 手動: すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - 明度 - カラー/グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は、**-50 ~ 50** です。
  - コントラスト - イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、**-50 ~ 50** です。

## カラーバランス

- (なし)
- **自動**：各書類の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙の厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。このオプションは写真に対して使用しないでください。
- **自動 - 詳細**：自動オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
  - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすると、古くなり黄ばんだ原稿に対応できます。値の範囲は、**-2 ~ 2**です。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **赤** - カラーイメージの赤のレベルを調整します。値の範囲は、**-50 ~ 50**です。
  - **青** - カラーイメージの青のレベルを調整します。値の範囲は、**-50 ~ 50**です。
  - **緑** - カラーイメージの緑のレベルを調整します。値の範囲は、**-50 ~ 50**です。

注：カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

**シャープネス** — イメージのエッジコントラストを増やします。

- (なし)
- **標準**
- **高**
- **強調**

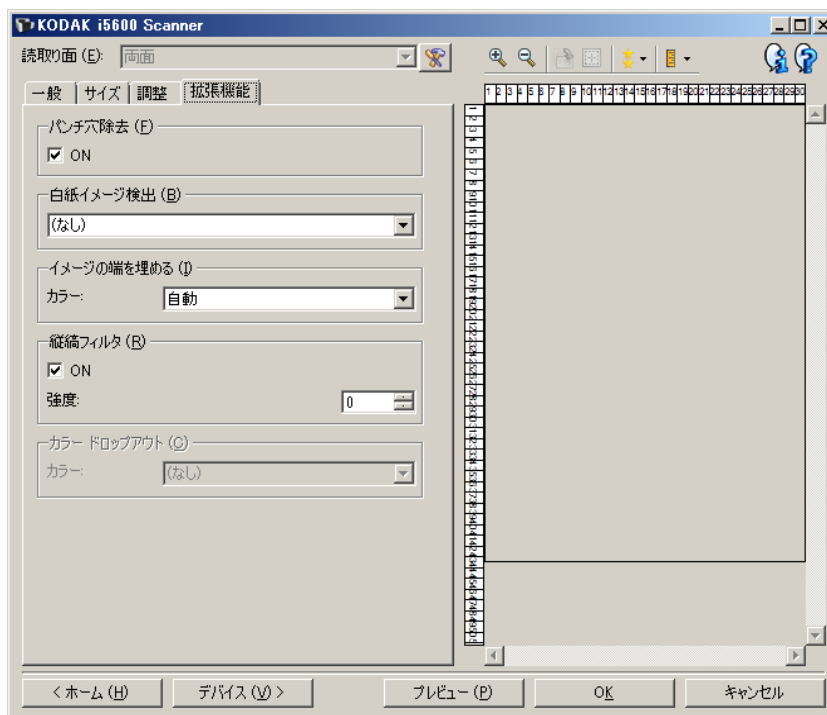
**背景のスモーキング** — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上しながら、ファイルサイズを軽減できます。

- (なし)
- **自動**：背景色を3色までスモーキングします。
- **自動 - 詳細**：自動オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
  - **強度** - 強弱を調整して背景色を調整します。値の範囲は、**-10 ~ 10**です。

## [拡張機能] タブ

[拡張機能] タブのオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



**パンチ穴除去** — 原稿端の周囲にある穴を埋めます。埋められる穴の形は、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから外した際に発生した多少の裂け目など）です。チェックを入れるとパンチ穴除去機能が有効になります。


**白紙イメージ検出** — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **(なし)**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **文字量基準**：イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。

注：コンテンツによる白紙イメージ検出は、スキャナーファームウェア 3.12.1（およびそれ以降）で改善されており、テキストがほとんどないページでも、より優れた検出が可能です。改善された機能では、ページあたり数文字だけでもその差が断定できます。この機能は感度が高いため、削除されつつあるイメージを見つけて削除されないようにする場合、比率コンテンツの値を増加させる必要がある場合があります。たとえば、5%の設定は、改善された機能では 12～13% と等しくなるでしょう。

- **文字量**：スキャナーが白紙であると判断する内容の最大量を設定できます。文字量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断されてスキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、0～100 です。



-  : [文字量基準] はプレビューによってイメージの文字量が入力されます。一般的な白紙ドキュメント（レターヘッド付きの白紙ドキュメントなど）があれば、文字量を設定する際に参考になります（必要に応じてプレビュースキャン、このボタンのクリック、文字量の調整などを実行します）。

注：このオプションはプレビューイメージがある場合のみ使用できます。

- **ファイル容量基準**：スキャンアプリケーションに送信されるイメージのサイズに基づいて、（他のすべての設定が適用された後に）白紙であるかどうか判断されます。
  - **ファイル容量** - スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は、1 ~ 1000 KB（1 KB は 1024 バイト）です。

**イメージの端を埋める** — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

- **カラー**：
  - (なし)
  - **自動**：イメージの端が周囲の色で自動的に埋められます。
  - **自動 - 破れを含める**：端埋めに加え、ドキュメントの端の破れも補完されます。
  - 白
  - 黒
- **フレーム設定**：このオプションを有効にすると、4 辺が等しく埋められます。このオプションは白黒に対してのみ使用できます。
- **上**：上端を埋める量を決定します。
- **左/右**：左端と右端の埋める量を決定します。
- **下**：下端を埋める量を決定します。

注：

- [上]、[左/右]、[下] の各オプションは、[フレーム設定] が有効になっている場合は使用できません。
- [イメージの端を埋める] を使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

このオプションはプレビューイメージには適用されません。

**縦縞フィルタ** — イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、ドキュメント上には存在しないにもかかわらず、まれにイメージに現れる線のことで、縦縞は、原稿上の汚れ（例、泥、塵、擦り切れた端など）が原因で発生するか、スキャナーの推奨清掃手順に従わないために発生します。

- **ON**：縦縞フィルタ機能を使用します。
- **強度**：縦縞フィルタの強弱を調整します。値の範囲は、-2 ~ 2 です。デフォルト値は0です。

注：[一般] タブの [ドキュメントのタイプ] フィールドを選択すると、[縞] フィルタに影響します。スキャナーはこのフィールドを利用して、イメージから縞を除去する際に、縞の下のデータを再構築する方法を決定します。テキストや低解像度の絵図があるドキュメントをスキャンする場合は、[文字] または [文字とグラフィックス] を選択すると最適なイメージ処理を実行します。

**カラードロップアウト** — フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールのイメージは、設定に影響を受けます。

- **カラー**：ドロップアウトする色を選択します。
  - (なし)
  - **マルチ**：濃い色合い（黒や濃紺インクなど）以外のドロップカラー。この機能はスキャンした各イメージのカラー分析を行い、最大5色までドロップアウトします。1600万色以上の色からカラーを選択できます。[強度] スライダーを使用して、カラーを調整します。この機能はスキャン原稿毎に解析します。ドロップアウトする色を選択する必要はありません。[マルチ] はグレースケール出力で使用できます。
  - **主色**：主色をドロップアウトします。様々な色がドロップアウトされるため、フォームがすべて同じ色の場合でも、このオプションを使用します。このオプションを使用すると、別の色のフォームもバッチに混在する事ができます。
  - 赤
  - 緑
  - 青
- **強度**：強弱を調整してドロップアウトします。値の範囲は、-10 ~ 10 です。デフォルト値は0です。このオプションは、[カラー] が [複数] または [主色] に設定されている場合にのみ、使用できます。

注：

- すべての [カラードロップアウト] オプションは、[スキャン形式] で [白黒] が選択されている場合に利用できます。
- グレースケールスキャンでは、[赤]、[緑]、[青] が使用できます。
- カラースキャンではカラードロップアウトは使用できません。

以下の赤、緑、青の Pantone 値は、ドロップアウト結果が良好になります。

この値は、標準の Pantone Matching System® Colors ガイド（コーティングなし、175 本 / 画面）を使用して確立しています。使用しているドキュメントの背景が明るい白でない場合は、異なる結果になる場合があります。iThresholding を推奨します。iThresholding でカラードロップアウトの処理結果に満足が得られない場合、ATP の設定により、2 値化の品質を詳細にコントロールします。

以下の表に、赤、緑、青のドロップアウトオプションで使用できる色のリストを示します。

**i5000 シリーズスキャナー、ファームウェア V3.09.01 の RGB エレクトロニックカラードロップアウト**

**赤色のドロップアウト**

144U	150U	151U	1485U	1495U	1505U	Orange 021U	156U
157U	158U	1555U	1565U	1575U	1585U	162U	163U
164U	165U	1625U	1635U	1645U	1655U	169U	170U
171U	172U	176U	177U	178U	Warm Red U	179U	1765U
1775U	1785U	1788U	1767U	1777U	1787U	Red 032U	182U
183U	184U	185U	186U	189U	190U	191U	192U
1895U	1905U	1915U	1925U	196U	197U	198U	199U
200U	203U	204U	205U	206U	210U	211U	212U
213U	217U	218U	219U	Rubine Red U	223U	224U	225U
226U	230U	231U	232U	Rhodamine Red U	236U	237U	238U
239U	240U	2365U	2375U	2385U	2395U	2405U	243U
244U	245U	246U	247U	250U	251U	252U	Purple U
253U	256U	257U	2562U	2572U	2582U	2563U	2573U
2567U	263U	264U	2635U	2645U	236U	2365U	2375U
243U	244U	245U	250U	251U	256U	257U	2562U
2572U	2582U	2563U	2567U	263U	264U	2635U	2645U
1375U							

### 緑のドロップアウト

106U	107U	108U	109U	113U	114U	115U	120U
121U	122U	1205U	1215U	127U	134U	135U	1345U
148U	317U	3245U	331U	332U	333U	337U	3375U
3385U	3395U	344U	345U	351U	352U	353U	358U
359U	360U	365U	366U	367U	368U	372U	373U
374U	375U	376U	379U	380U	381U	382U	386U
387U	388U	389U	390U	393U	394U	395U	396U
397U	3935U	3945U	3955U	3965U	317U	3294U	

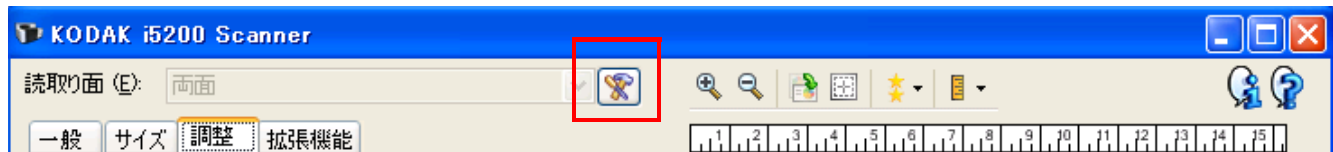
### 青のドロップアウト

317U	3245U	236U	2365U	2375U	243U	244U	245U
250U	251U	256U	257U	2562U	2572U	2582U	2563U
2567U	263U	264U	2635U	2645U	236U	2365U	2375U
243U	244U	245U	250U	251U	256U	257U	2562U
2572U	2582U	2563U	2567U	263U	264U	265U	266U
2635U	2645U	2655U	270U	271U	272U	2705U	2715U
2725U	2706U	2716U	2726U	2707U	2717U	2727U	2708U
2718U	2728U	277U	278U	279U	283U	284U	285U
290U	291U	292U	293U	2905U	2915U	2925U	2935U
297U	298U	299U	300U	2975U	2985U	2995U	3005U
304U	305U	306U	Process Blue U	310U	311U	312U	313U
3105U	3115U	3125U	317U	318U	319U	324U	3242U
3252U	3245U						

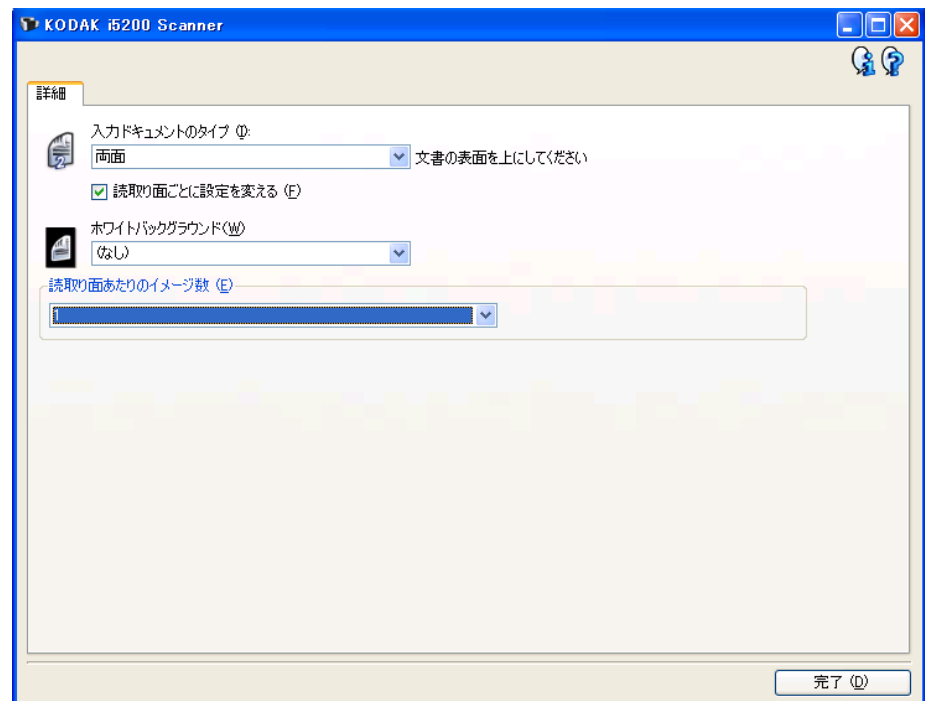
## 詳細イメージセットアップ

### 【詳細】 タブ

【イメージの詳細設定】アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、【読み取り面】ドロップダウンボックスの隣にあります。

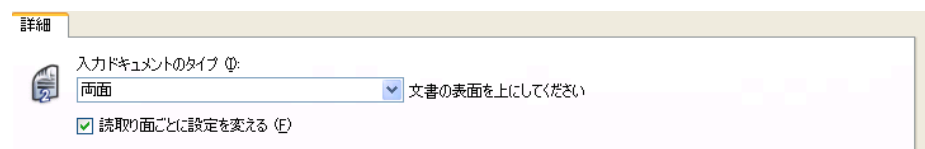


【詳細イメージセットアップ】アイコンを選択すると、【詳細】タブが表示されます。



**入力ドキュメントのタイプ** — 設定する面に応じて、【両面】、【片面 - 表】、または【片面 - 裏】を選択します。

**読み取り面ごとに設定を変える** — デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン対象ドキュメントのそれぞれの面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず【入力ドキュメントのタイプ】ドロップダウンリストから【両面】オプションを選択し、次に【読み取り面ごとに設定を変える】のチェックボックスを選択します。



この操作を行うと、[イメージ設定] ウィンドウにある [読み取り面] オプションが有効になり、読み取り面ごとに異なる設定を選択することができます。[読み取り面ごとに設定を変える] を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン対象ドキュメントの表面のみ適用されます。表面に関するオプションを選択し終わったら、[読み取り面] オプションから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。



**ホワイトバックグラウンド** — ドキュメントの一部が欠けている場合、その部分の背景を黒の代わりに白で表示します。

- (なし) : 表面と裏面に黒色のバックグラウンドを使用します。
- 両面 : 表面と裏面に白色のバックグラウンドを使用します。
- 片面 - 表 : 表面にホワイトバックグラウンドを使用します。裏面は黒色が使用されます。このオプションは、[入力ドキュメントのタイプ] が [両面] に設定されており、[読み取り面ごとに設定を変える] が選択されているか、[入力ドキュメントのタイプ] が [片面 - 表] に設定されている場合に限られます。
- 片面 - 裏 : 裏面用にホワイトバックグラウンドを使用します。表面用には黒が使用されます。このオプションは、[入力ドキュメントのタイプ] が [両面] に設定されており、[読み取り面ごとに設定を変更] が選択されているか、[入力ドキュメントのタイプ] が [片面 - 裏] に設定されている場合に限られます。

以下は、ホワイトバックグラウンドに最適な例です。

- 四角形でないドキュメントをスキャンするとき、イメージでは、ドキュメントの外側のエリアを黒ではなく白にする必要がある場合。
- 片面印刷の薄い紙をスキャンするとき、原稿の地に黒が透けるのを防止する必要がある場合。

**読み取り面あたりのイメージ数** — イメージ処理する選択項目に基づいて、読み取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- **1** : 1つのイメージが作成されることを示します。
- **1 - 自動カラー検知** : 原稿によってカラー／グレースケールまたは白黒のいずれかを自動的に検知します。
- **1 - トグルパッチに依存** : トグルパッチがスキャンされるとカラー／グレースケールと白黒のスキャンが切替わります。
- **マルチ** : 複数イメージが作成されます。

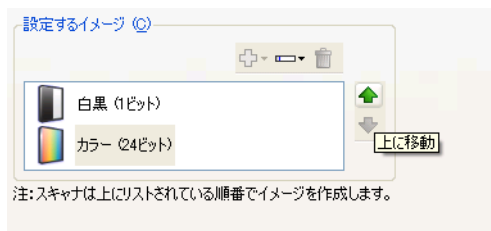
注 : [読み取り面あたりのイメージ数] オプションから [1 - 自動カラー検知] を選択すると、[原稿内容の設定] タブが表示されます。

**設定するイメージ** — 設定する電子イメージを示します。

注 : [読み取り面あたりのイメージ数] オプションから [1] 以外の項目を選択している場合にのみ、このオプションを使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- *例1* : 原稿の色量を基にカラー/グレースケールと白黒スキャンを切替え
- *例2* : 原稿の各面に対して複数イメージを作成
- *例3* : 原稿の両面にそれぞれ異なる設定を使用

スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上矢印と下矢印で変更します。



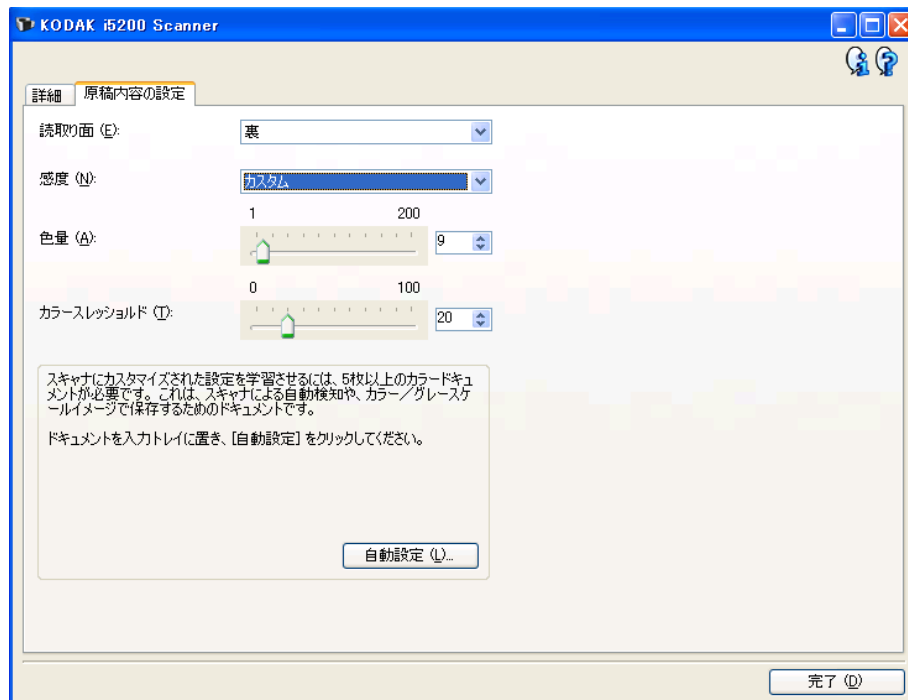
**[ツールバー] ボタン :**

	<b>追加</b> : 設定リストの一番下にイメージを追加します。
	<b>変更</b> : 現在選択されているイメージの種類を変更します。
	<b>削除</b> : 選択したイメージの種類を削除します。

**完了** — [イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

## [ 原稿内容の設定 ] タブ

[ 書類タイプの設定 ] タブのオプションは、片面または両面ジョブに使用できます。



**読取り面** — [ 感度 ] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[ 詳細 ] タブで [ 読取り面ごとに設定を変える ] が選択されている場合のみ使用できます。

### 感度

- **低**：カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、スキャンする原稿の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、[ 低 ] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、[ 中 ] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、[ カラーレッシュヨルド ] や [ 色量 ] 値の調整が必要になる場合があります。



- **カスタム**：マニュアルで [色量] や [カラーズレッシュヨルド] の値を調整することができます。

注： [感度] の値を設定する場合は、まず [中] オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー／グレースケールとして返された場合は、[高] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー／グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、[低] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足いく結果が得られなかった場合は、[カスタム] を選択してマニュアルで [色量] や [カラーズレッシュヨルド] を調整してください。[カスタム] を選択した場合、[自動設定] モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨する設定値を算出させることもできます。

**色量** — 原稿をカラー／グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。[色量] の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は **1 ~ 200** です。

**カラーズレッシュヨルド** — 色量の算出時に特定の色を含めるための、カラーズレッシュヨルドまたは彩度（薄青と紺色の対比など）。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は **0 ~ 100** です。

**自動設定** — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。[自動設定] を選択する前に、入力トレイエレベータに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される [色量] を決定します。

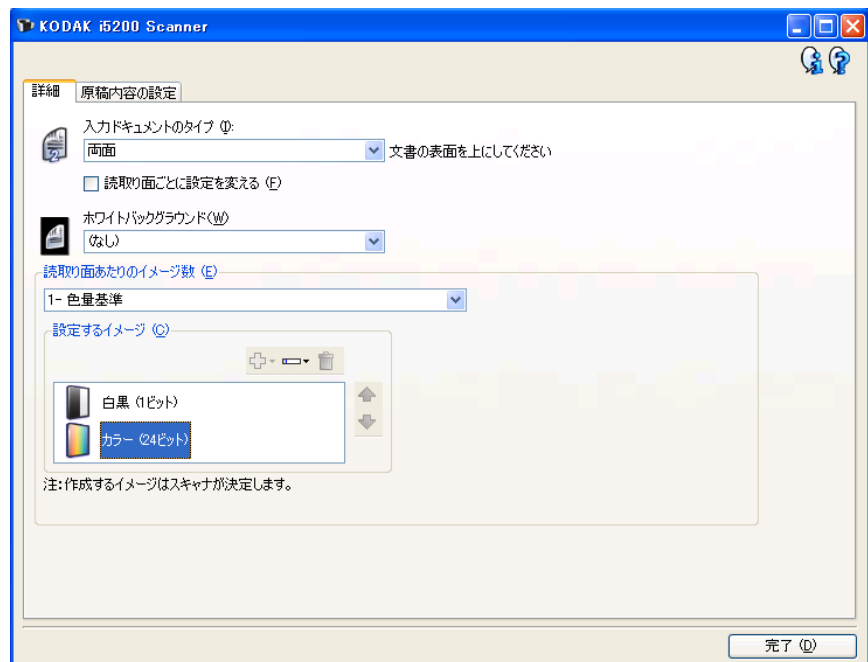
注： 計算に応じて [色量] と [カラーズレッシュヨルド] の値が自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、[カラーズレッシュヨルド] の値をマニュアルで調整してください。

**例 1: 原稿の色量を基にカラー/グレースケールと白黒スキャンを切替え**

この例では、両面に情報が印刷されたカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づきカラーまたは白黒イメージが出力します。

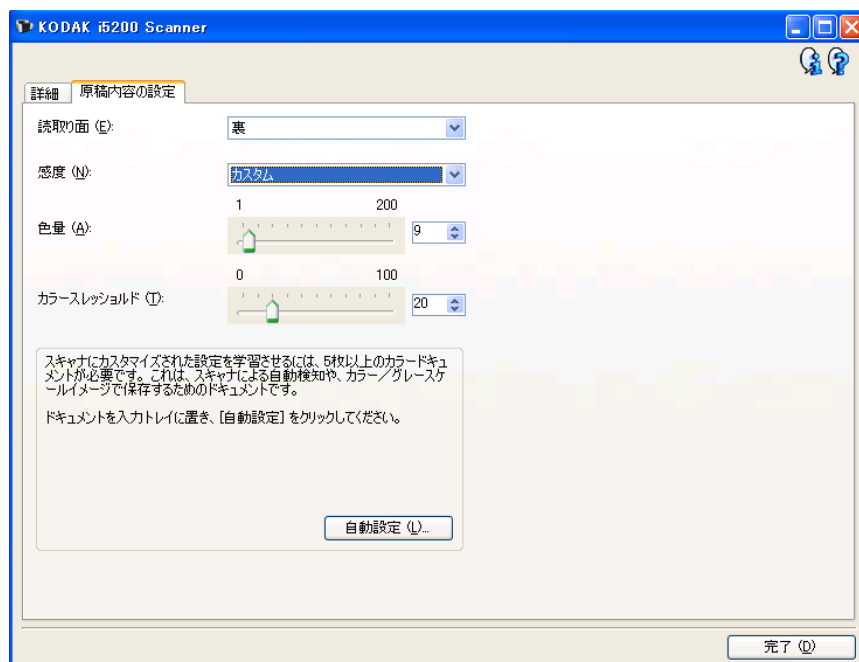
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の[設定のショートカット]を選択します。
2. [設定]を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの[詳細イメージセットアップ]アイコンを選択すると、[詳細]タブが表示されます。
4. [入カドキュメントのタイプ]両面を選択します。
5. [読取り面あたりのイメージ数 1 - 色量基準]を選択します。

注: [詳細]タブに[設定するイメージ]が表示され、[カラー]、[白黒]イメージ項目があります。[原稿内容の設定]タブも表示されます。



6. カラー原稿として検出されたが、カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の設定をします。
  - [カラー (24 ビット)]を選択します。
  - [変更]を選択してオプションのリストを表示します。
  - [グレースケール]を選択します。

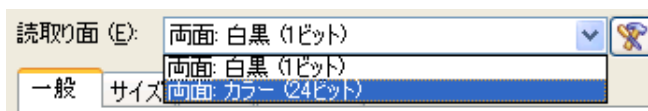
7. [原稿内容の設定] タブに移動します。



8. [感度] オプションを選択します。

9. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注：[読取り面] オプションで、[両面：カラー（24 ビット）]、と [両面：白黒（1 ビット）] が選択できます。



10. [読取り面：] で [両面：カラー（24 ビット）] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

11. [読取り面：] で [両面：白黒（1 ビット）] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

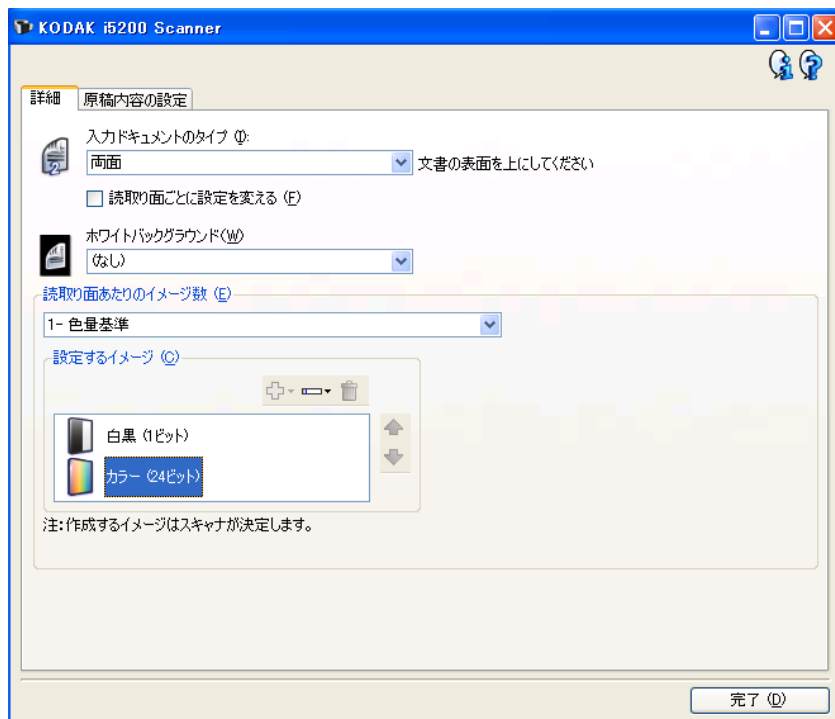
12. 選択が終了したら、[ホーム] を選択して コダック スキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

## 例 2：原稿の各面に対して複数イメージを作成

この例では、両面に情報が印刷されている原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
2. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[詳細イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、**[詳細]** タブが表示されます。
4. **[入カドキュメントのタイプ]**：**[両面]** を選択します。
5. **[読取り面あたりのイメージ数]**：**[マルチ]** を選択します。

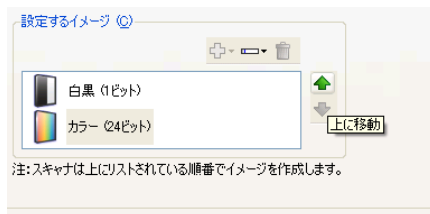
注：**[詳細]** タブに **[設定するイメージ]** が表示され、**[カラー]**、**[白黒]** イメージ項目があります。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の設定をします。
  - **[カラー (24 ビット)]** を選択します。
  - **[変更]** を選択してオプションのリストを表示します。
  - **[グレースケール]** を選択します。

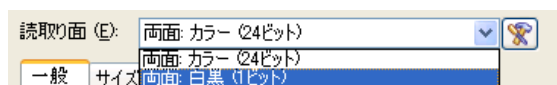
7. デフォルトでは、スキャナーはまずカラー / グレースケールイメージを出力してスキャンアプリケーションに送り、次に白黒イメージを生成してスキャンアプリケーションに送ります。白黒イメージを先に生成して送信したい場合、次の設定をします。

- [白黒 (1 ビット)] を選択します。
- [上に移動] を選択して、白黒イメージをリストの上にセットします。



8. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注: [読取り面] オプションで、[両面: カラー (24 ビット)]、と [両面: 白黒 (1 ビット)] が選択できます。



9. [読取り面:] で [両面: カラー (24 ビット)] を選択します。

注: イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

10. [読取り面:] で [両面: 白黒 (1 ビット)] を選択します。

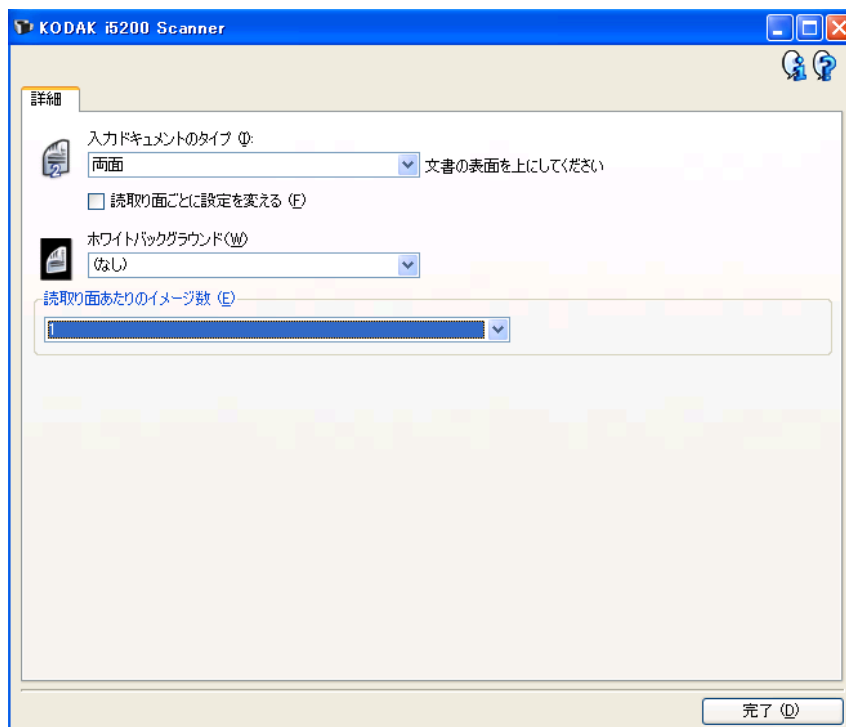
注: イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

11. 選択が終了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

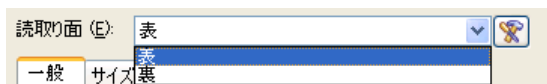
**例 3：原稿の両面にそれぞれ異なる設定を使用**

この例では、表面はカラー、裏面は白黒でスキャンする設定をします。

1. [詳細] タブを開いていない場合、次の手順で設定します。
  - スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
  - [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
  - イメージ設定ウィンドウの [詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
2. [入カドキュメントのタイプ]: から [両面] を選択します。
3. [読み取り面ごとに設定を変更] オプションを選択します。
4. [読取り面あたりのイメージ数]: [1] を選択します。



5. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。  
注: [読取り面] オプションで、[表] と [裏] の 2 つの項目が表示されます。



6. [読取り面:] で [表] を選択します。
7. [一般] タブの [スキャン形式] オプションで、[カラー (24 ビット)] を選択します。  
注: イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。
8. [読取り面:] で [裏] を選択します。

9. [一般] タブの [スキャン形式] オプションで、[白黒 (1 bit)] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。

10. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

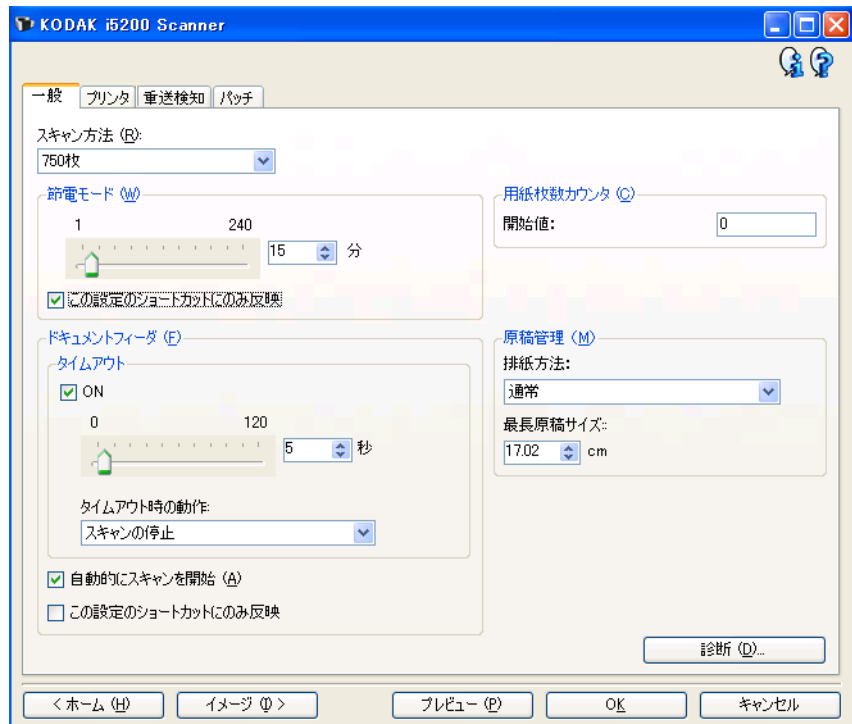
注：手順 4 で [読取り面あたりのイメージ数：[1]] 以外のオプションを選択している場合にのみ、2つの [設定するイメージ] オプショングループを使用できます。その場合は、表裏各面のイメージを個別にセットアップできます。



## デバイス設定ウインドウ

このウインドウからスキャナー固有のすべてのオプションや診断機能を利用可能なタブを使用して設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された [ 設定のショートカット ] に保存されます。[ デバイス設定 ] ウインドウには [ 一般 ]、[ プリンタ ]、[ 重送検知 ] タブがあります。

ここでは、(Scan Validation Tool で表示される) TWAIN のデフォルトインターフェイスについて説明します。ホストアプリケーションは一部のタブを非表示にしたり、表示されるオプションを制限したりすることで、インターフェイスを変更することができます。



**ホーム** — スキャナーメインウインドウに戻ります。

**イメージ** — [ イメージ設定 ] ウインドウを表示します。

**プレビュー** — スキャンを開始して、イメージ設定ウインドウのプレビュー領域にスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

**OK / スキャン** — 選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

**注** : このボタンが [ OK ] の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、コダックスキャナーメインウインドウを閉じます。

### 情報アイコン



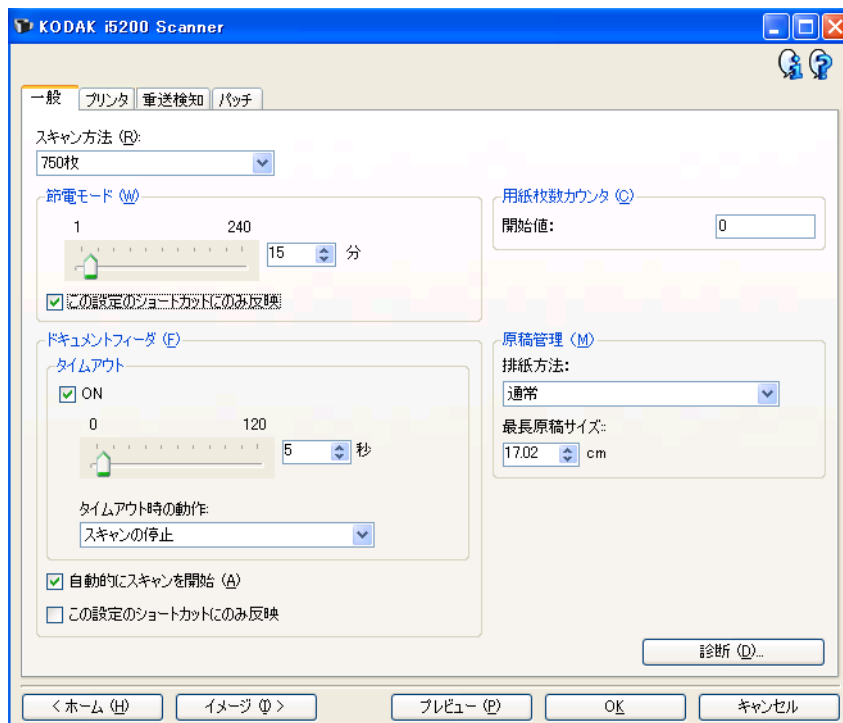
**バージョン情報** : スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



**ヘルプ** : 現在表示されているウインドウのヘルプ情報を表示します。



[一般] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。



### 給紙方法

- **ドキュメントフィーダ**：入力エレベータが一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **100 枚**：このオプションは、入力エレベータから 25 ～ 100 枚の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **250 枚**：このオプションは、入力エレベータから 100 ～ 250 枚の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **500 枚**：このオプションは、入力エレベータから 250 ～ 500 枚の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **750 枚**：このオプションは、入力エレベータから 500 ～ 750 枚の用紙をスキャンする場合に最適です。

**節電モード** — スキャナーが操作されていないときに節電モードに移行するまでの時間を設定できます。

**電源オフ** — 自動的に電源が切れるまで、スキャナーを節電モードにしておく時間（分）を設定できます。

注：省電力設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。  
[この設定のショートカットにのみ反映] オプションを有効にしない限り、変更は他のショートカットに反映されます。

## ドキュメントフィーダ

- **タイムアウト**：最後の原稿がフィードされてから、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を選択できます。このオプションは、オフにすることもできます。
- **タイムアウト時の動作**：ドキュメントフィーダのタイムアウト時に実行するアクションを指定できます。
  - **スキヤンの停止**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。
  - **スキヤン一時停止**：スキヤンは停止しますが、スキヤンアプリケーションはイメージ取得のために待機します（フィーダは停止）。スキャナーの **[開始/再開]** ボタンを押すと、スキヤンを再開します。スキャナーの **[停止/一時停止]** ボタンを押すか、スキヤンアプリケーションからスキヤンを終了できます。

**自動的にスキヤンを開始** — このオプションが選択されると、スキャナーは書類が入力エレベータにセットされるまで最長 10 秒待機します。また、入力エレベータが空になった場合、用紙が入力エレベータにセットされるとスキャナーは自動的にスキヤンを再開します。スキャナーはドキュメントフィーダのタイムアウトで指定された時間待機します。

このオプションを無効にすると、オペレータはスキヤン開始前に、スキャナーのタッチスクリーンから **[優先処理]** オプションを有効にできます。

注：ドキュメントフィーダ設定は、すべての **[設定のショートカット]** で共有されます。**[この設定のショートカットにのみ反映]** オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに反映されます。

**用紙枚数カウンタ** — スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。スキャナーによってカウントアップされ、イメージヘッダに送られます。

注：値を変更すると、デバイス - **[プリンタ]** タブの **[カウンタ]** オプションに影響が及びます。

## 原稿管理

注：管理デュアルスタッキングが有効な場合、[原稿処理]には、[サイズ混在:ベスト]未満のスループットを用いたカスタムレベルが自動的に設定されます。

- **排紙方法**：スキャナーの原稿の排紙方法を選択できます。これにより、原稿のフィード方法、スキャナー内の搬送速度、出力トレイに排紙される方法に影響が及びます。
  - **標準**：追加処理はありません。原稿のサイズが全て同じ場合に最適です。
    - 最高の処理速度
    - 排紙制御を**無効**にした状態
    - 原稿間のギャップが小さい
  - **サイズ混在**：サイズが混在する原稿を出力トレイ上に順番に積載される様に制御します。ほとんどのサイズ混在の原稿セットに使用できます。
    - 処理速度が若干低下
    - 排紙制御を**有効**にした状態
    - 原稿間のギャップが小さい
  - **サイズ混在:ベスト**：サイズの差が大きい混在原稿セットの場合、出力トレイ上に順番に積載される様に最適に制御されます。
    - 処理速度が多少低下
    - 排紙制御を**有効**にした状態
    - 原稿間のギャップが大きい
  - **薄紙**：出力トレイに排紙される際に特別な配慮が必要な原稿の場合。
    - 処理速度が大幅に低下
    - 排紙制御を**無効**にした状態
    - 原稿間のギャップが小さい
    - 搬送速度が 1/4 に低下
  - **厚紙**：カードストックよりも厚い原稿用 (0.25 mm)
    - 処理速度が大幅に低下
    - 排紙制御を**有効**にした状態
    - 原稿間のギャップが小さい
    - 搬送速度が 1/4 に低下
  - **薄紙**：20 ポンドのボンド紙よりも薄い原稿用（薄紙など）。
    - 処理速度が大幅に低下
    - 排紙制御を**有効**にした状態
    - 原稿間のギャップが大きい
    - 搬送速度が 1/4 に低下

- **最長原稿サイズ**：原稿セット内で最長原稿の長さを設定します。

注：

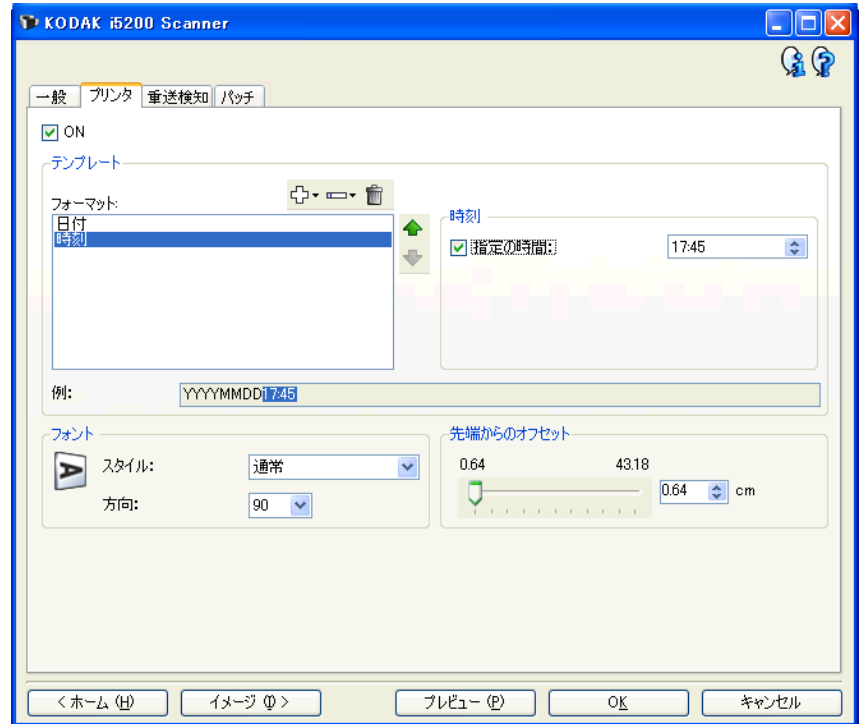
- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。イメージサイズ- アウトライン；プリンタ- 用紙先端からのオフセット位置；重送- 長さ検知。
- 長尺原稿は（解像度、カラー、グレースケールなど）すべての設定の組み合わせをサポートしません。柔軟にアプリケーションに対応できるように、長さを超えた原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺原稿の場合は、スキャナーの処理能力が低下する場合があります。
- この値より長い原稿をスキャンすると、搬送部が停止し（スキャナー内に原稿が残ったまま）、紙詰まりのメッセージが表示されます。
- 最長原稿サイズは常に 2.5 ～ 180 インチ (6.35 cm ～ 457 cm) ですが、スキャンの最大長はビット深度（カラー / グレースケール / 白黒、スキャン解像度）によって異なります。白黒の 200 dpi は 180 インチ (457 cm) ですが、カラーの 600 dpi はかなり短くなります。ユーザが選択した最大長に達する前にスキャナーの処理能力を越えた場合、スキャナーに紙詰まりと表示され、ホストアプリケーションにはその原稿のイメージは送信されません。
- 非常に長い原稿など、サイズが混在する原稿をスキャンする場合、スキャナーのタッチスクリーンで [優先処理 1 枚] または [優先処理 バッチ] オプションを使用して、[長尺原稿スキャン] を有効にするとよいでしょう。
- 管理デュアルスタッキングが有効な場合、デフォルト設定は 10 インチ / 254 mm の最長原稿サイズに制限されます。詳細については、『ユーザズガイド』の第 5 章「長さ保護の有効化」参照してください。

**診断** — [診断] タブを表示します。

## デバイス - [プリンタ] タブ

拡張プリンタには、搬送方向に対し平行に印字することができる機能があり、英数字、日時、原稿カウント、カスタムメッセージをサポートしています。印字情報は原稿毎にすべてイメージヘッダレコードに取り込まれます。

注：このタブは、オプションのプリンタが取付け済みの場合のみ表示されます。



**ON** — プリンタを有効にして、このタブの他のオプションを有効にします。

注：スキャナーのタッチスクリーンから、印字の優先処理もできます。

**テンプレート：フォーマット** — 印字文字列を定義できます。印字文字列の最大文字数は40文字です（スペースを含む）。

### [ツールバー] ボタン

	<b>追加</b> ：印字文字列に追加する項目リストを表示します。項目を1つ選択すると、[フォーマット]リストの最後に表示されます。
	<b>変更</b> ：[フォーマット]リスト内で現在選択されている項目を、項目リストのいずれかと変更できます。
	<b>削除</b> ：現在選択されている項目を[フォーマット]リストから削除できます。

注：印字文字列を構成する場合、40文字の制限に適合する項目だけを [追加] および [削除] リストから使用できます。

**項目** — 項目が選択されると、関連付けられたオプションはすべて[フォーマット]リストの右側に表示されます。

- **カウンタ**：これは、スキャンセッションのカウンタです。この値はスキャナーにより順次増え、イメージヘッダに送られます。

- **開始値**：次にスキャンされる原稿のカウンタを設定できます。

- 注：この値を変更すると、デバイス - [一般] タブのオプションに影響が及びます。

- **フィールドの桁数**：カウンタの桁数を 1 ～ 9 の範囲で設定できます。ただし、印字文字数が 6 文字しか残っていない場合は、桁数も 6 文字に制限されます。

- **ゼロ付き**：カウンタ値がフィールドの桁数以下の場合、カウンタの表示形式を設定できます（例はフィールドの桁数が 3、カウンタ値が 4 の場合です）。以下のオプションが選択できます。

- 表示：“004”

- 表示しない：“4”

- スペースとして表示：“ 4”

- **日付**

- **フォーマット**：

- MMDDYYYY

- DDMMYYYY

- YYYYMMDD

- DDD (Julian)

- YYYYDDD (ユリアン日付)

- **区切り記号**：（例は YYYYMMDD の場合です）

- なし

- スラッシュ：2010/08/24

- ハイフン：2010-08-24

- ピリオド：2010.08.24

- スペース：2010 08 24

- **指定の日付**：スキャナーの現在の日付を使用しない場合は、特定の日付を設定できます。

- **時刻** : HH: MM 形式です。
  - **指定の時刻** : スキャナーの現在の時刻を使用しない場合は、特定の時刻を設定できます。
  - **スペース** : スペースを追加します。
  - **メッセージ** : 印字文字列に含める任意の文字列を指定できます。(スペースを含めて) 最大 40 文字まで指定できます。

注 : 日本語を正しく表示するには、Microsoft Global IME 5.01 for Japanese - with Language Pack, English Language Version のインストールによって設定された MS ゴシックをフォントに使用する必要があります。www.microsoft.com/msdownload/iebuild/ime5\_win32/en/ime5\_win32.htm で入手できます。

- **テンプレートの例** : 印字文字列がどのように表示されるか例を表示します。[フォーマット] リストで項目を選択すると、例で該当するオプションが強調表示されます。
- **フォント** : 情報を印字する方向を選択できます。
  - **スタイル** : 使用できる文字の書式は、標準、太字、極太。

ABC

ABC

ABC

[標準] : 90 度回転

太字 : 90 度回転

極太 : 90 度回転

- **方向** : 文字を縦方向 (書類の先端から開始) に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用できるオプションは、0, 90, 180, 270。

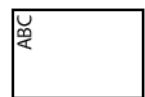
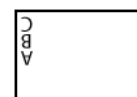
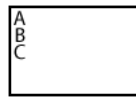
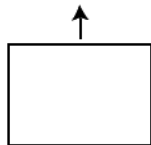
紙送りの方向

0

90

180

270



**先端からのオフセット** — 値を選択して、原稿の先端から印字を開始する位置を決定します。

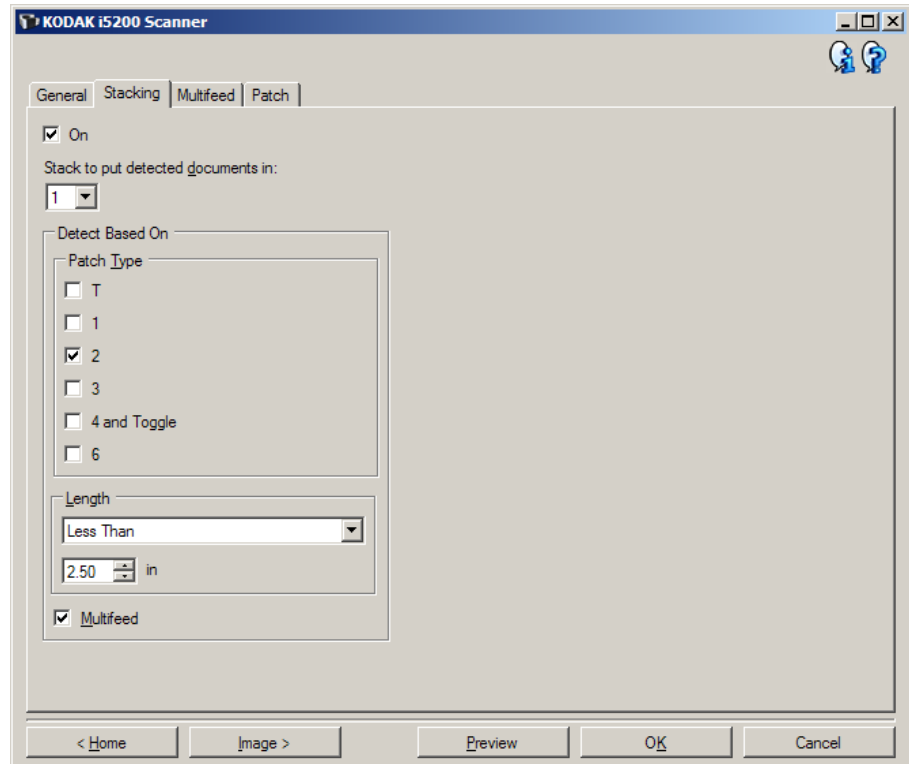
注：

- 情報がすべて印字されていなくても、印字は原稿の後端から 6.3 mm (1/4 インチ) のところで自動的に停止します。
- 印字の横位置は、スキャナー内部のインクカートリッジの場所によって決まります。印字位置の詳細についてはユーザーズガイドを参照ください。
- 先端からのオフセットも、スキャナーのタッチスクリーンで無効にすることができます。



**デバイス-[スタッキング]タブ** [スタッキング]タブでは、コダック管理スタッキングアクセサリ出力トレイの2つのスタックに、原稿を仕分けるオプションを設定できます。

注：[スタッキング]タブは、スキャナーでコダック管理デュアルスタッキングアクセサリが有効な場合にのみ使用できます。



**オン**—スタッキングをオンにして、このタブの他のオプションを有効にします。

注：スキャナーのタッチスクリーンからオンまたはオフにすることで、スタッキングは優先処理される場合もあります。

**検出された原稿を入れるスタック** - どのスタックに [検出基準] 設定に一致する原稿を入れるかを指定します。一致しない原稿はすべて別のスタックに入ります。

注：原稿の重さや状態により、原稿を最適にスタックできるかどうかに影響する可能性があるため、長さが6インチ/152mm未満の原稿（請求書など）はスタック1に、6インチ/152mm以上の原稿（パッチシートなど）はスタック2に仕分けることをお勧めします。

## 検出基準

- **パッチタイプ** — パッチシートがある場合、どのパッチシートを原稿セットから仕分け、そして選択したスタックに入れるかを選択できます。次の任意の組み合わせがオプションになります。T、1、2、3、4とトグルパッチ、および6。パッチシートはスタック2に仕分けることをお勧めします。

注：

- スキャナーはパッチシートのイメージを生成します。
- スキャナーは縦のパッチのみ認識します。
- パッチシートを硬い紙に印刷すると、より確実にスタッキングできるようになります。
- 詳細については、『ユーザーズガイド』の「パッチコードの要件」のセクションを参照してください。

**長さ** — どの原稿を原稿セットから仕分けるかを、原稿の長さを基準に選択できます。

• (なし)

- **未満**：この長さ未満の原稿が、選択したスタックに仕分けられます。比較的短い原稿（請求書など）をスタック1に仕分ける場合、このオプションをお勧めします。
- **以上**：この長さ以上の原稿が、選択したスタックに仕分けられます。比較的長い原稿をスタック2に仕分ける場合、このオプションをお勧めします。
- **範囲**：長さが選択した範囲内の原稿が、選択したスタックに仕分けられます。

注：

- スキャン中に原稿が斜めに傾いてしまうこともあり得るため、長さには1/2インチ/25mmを加算して入力してください。
- 6インチ/152mm未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック1へのスタッキングをより確実に行うことができます。

**重送** — 重送されたと判断される原稿をすべて仕分ける場合、このオプションを選択します。これをオンにする設定、および重送検知の設定は、[デバイス - 重送] タブで行います。

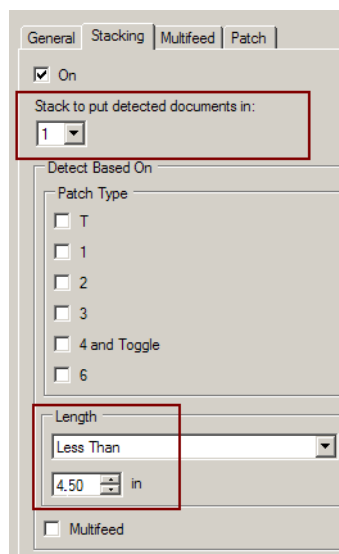
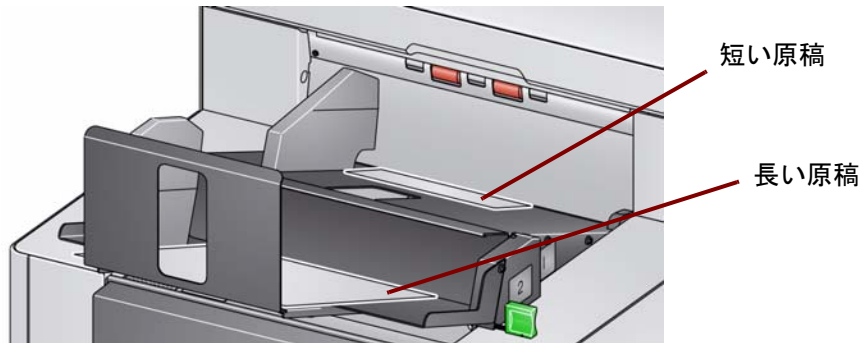
注：

- 比較的厚い原稿を検知し、これらをスタック2に仕分けることが可能になることで、このオプションにはさらなる機能があります。すべての原稿が同じようなサイズのため、長さを基準とした検知が使用できないような場合、このオプションは良い選択になります。
- このオプションは、重送検知を自動的にオンにしません。

## スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定

以下に、スタッキングオプションを使用する方法をいくつかの例で示します。

### 短い原稿の選別



請求書などの短い原稿をその他の原稿と選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

**検出された原稿を入れるスタック：**

1 (スタック #1)

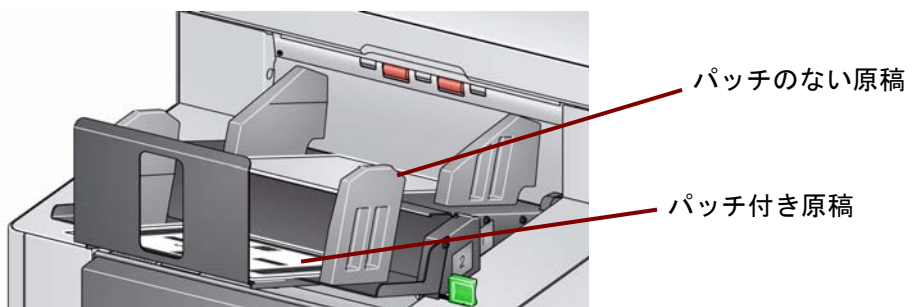
**長さオプション：**

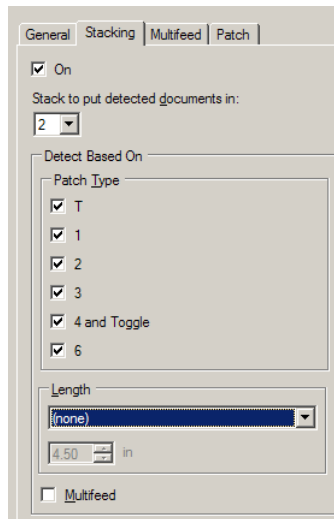
**未満：**最も短い原稿に 1/2 インチを加算した長さを設定します。

**注：**

- 短い原稿を給紙中に斜めに傾いてしまうこともあり得るため、1/2 インチを加算する必要があります。
  - 比較的短い原稿をスタック #2 にスタックしようとしても、スタック #2 の位置には届かず、うまくいきません。
- 6 インチ未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック #1 へのスタッキングをより確実に行うことができます。

### パッチコード付き原稿区切りの選別





パッチコード付き原稿区切りシート（またはカラートグルパッチシート）をその他の原稿と選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

**検出された原稿を入れるスタック：**

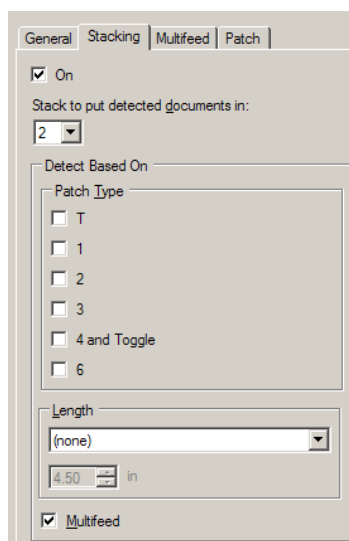
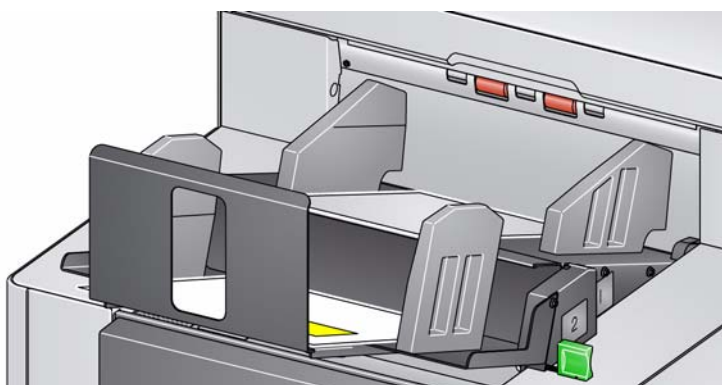
**2（スタック #2）**

**検出基準：**パッチタイプオプションに、1つ以上のパッチタイプを設定します。

原稿区切り用に挿入されたパッチ付き原稿は、通常では大量に注文されるか、要求に応じて印刷されます。管理デュアルスタッキングでは、作業に役立つ硬い紙を検出し、この用紙にパッチ付き原稿を印刷します。これにより、選別とスタッキングがより確

実にできるようになります。

## 重送アラーム原稿の選別



重送アラームを作動させた原稿を選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

**検出された原稿を入れるスタック：**

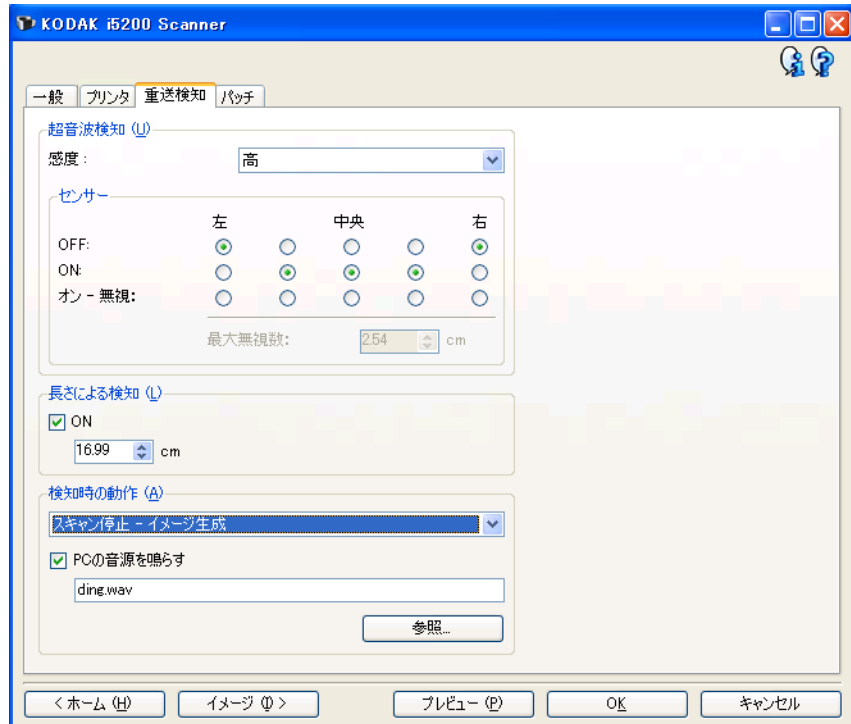
**2 (スタック #2)**

**検出基準：**重送オプションを設定します。

重送により例外スタッキングを作動させると、機能がさらに増えます。たとえば、スタック #2 で重送アラームを作動させるようなスタッキング原稿は、比較的厚い原稿を選別する方法になり得ます。サイズやパッチではこのような原稿を選別できません。

**注：**最大長の許可を優先にしても、管理デュアルスタッキングの長さ保護は無効になりません。

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送検知はホッチキスで綴じられた原稿、糊のついた原稿、静電気を帯びている原稿が原因で発生します。



### 超音波検知

**感度** — スキャナーに複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを、検知レベルを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検出することにより、重なった書類を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在している場合でも、重送を認識します。

- (なし)
- **低**：レベルが低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性がもっとも低くなります。
- **中**：厚さが異なる書類や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、ほとんどのラベルは重送とは認識されません。
- **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が 75.2 g/m<sup>2</sup> 以下のボンド紙の厚さである場合など、厚さが同じ原稿をスキャンするのに適しています。

注：設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送として検知されます。

**センサ** — 5ヶ所のセンサが搬送路の幅をカバーします。重送を正しく検知するためには原稿が各センサの下を通過しなければなりません。

- **左から右**：5ヶ所から有効にするセンサを選択できます。たとえば、原稿の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサを無効にできます。
- **最大無視数**：入力した値までの重送を無視します。このオプションは重送検知センサを完全に無効にすることなく重送を許可したい場合に便利です（例：約 7.6 cm の付箋）。

注：

- このオプションを使用するには1つ以上のセンサを**オン - 無視**に設定する必要があります。
- この長さは**オン - 無視**に設定されているすべてのセンサに適用されます。

**長さによる検知** — ジョブ設定で原稿の最大の長さを選択できます。スキャナーがこの値より長い原稿を検知した場合、重送が発生したと判定します。このオプションを**オフ**にするか、長さを設定できます。

**検知時の動作** — 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキヤンの停止**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。重送原稿は排紙されます。重送イメージはホストアプリケーションには送信されません。
- **スキヤンの停止 - イメージ生成**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージが生成されます。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。重送原稿は排紙されます。
- **スキヤンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキヤンを直ちに停止し（搬送路に残ります）、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路から原稿を取り除き、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。重送イメージはホストアプリケーションには送信されません。
- **スキヤンの続行**：スキャナーはスキヤンを継続します。スキャナーはユーザが重送用に設定した音を鳴らします。
- **スキヤン一時停止**：スキヤンは停止しますが、スキヤンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの【**開始／再開**】ボタンを押すと、スキヤンを再開します。スキャナーの【**停止／一時停止**】ボタンを押して、またはスキヤンアプリケーションからスキヤンを終了できます。スキャナーはユーザが重送用に設定した音を鳴らします。

- ・ **スキャンの一時停止（インタラクティブ重送）**：スキャンした原稿のプレビューイメージを確認して、スキャンしたイメージの**承認**、原稿の**再スキャン**、または重送検知したイメージの破棄を選択できます。スキャンしたイメージは、承認されるまでホストアプリケーションには送信されません。このオプションを選択すると、すべての重送イベントがスキャナーで処理されます。スキャンアプリケーションでのイメージの操作は不要です。また、スキャナーの前から離れる必要がないため、無駄な移動や手間を省きます。このオプションはスキャナー本体の機能です。スキャンアプリケーションの変更/更新は必要ありません。



注：スキャナーファームウェアがバージョン 3.9.1 以上の場合、**スキャン一時停止の重送アクション**を使用すると、このオプションが自動的に有効になります。

プレビューイメージは、TWAIN データソースで選択したイメージ処理設定（回転 90 度など）に応じて回転します。スキャンアプリケーションがイメージを回転している場合、またはその他のイメージ処理を実行している場合、プレビューイメージにはスキャンイメージ処理が適用されません。

- ・ 両面（表面と裏面）スキャンの場合は、両方のイメージが表示されます。
- ・ 白黒スキャンの場合は、白黒のイメージが表示されます。
- ・ カラー／グレースケールスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- ・ デュアルストリームスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- ・ VRS ソフトウェアによる白黒スキャンの場合は、グレースケールのイメージが表示されます。
- ・ **イメージの承認**：イメージを承認する場合は、オペレータコントロールパネルで【承認】を選択するか、スキャナーの【開始／再開】ボタンを押します。【承認】を選択すると、スキャナーのプレビューに表示されたイメージがすぐにスキャンアプリケーションに送信され、スキャンが続行されます。



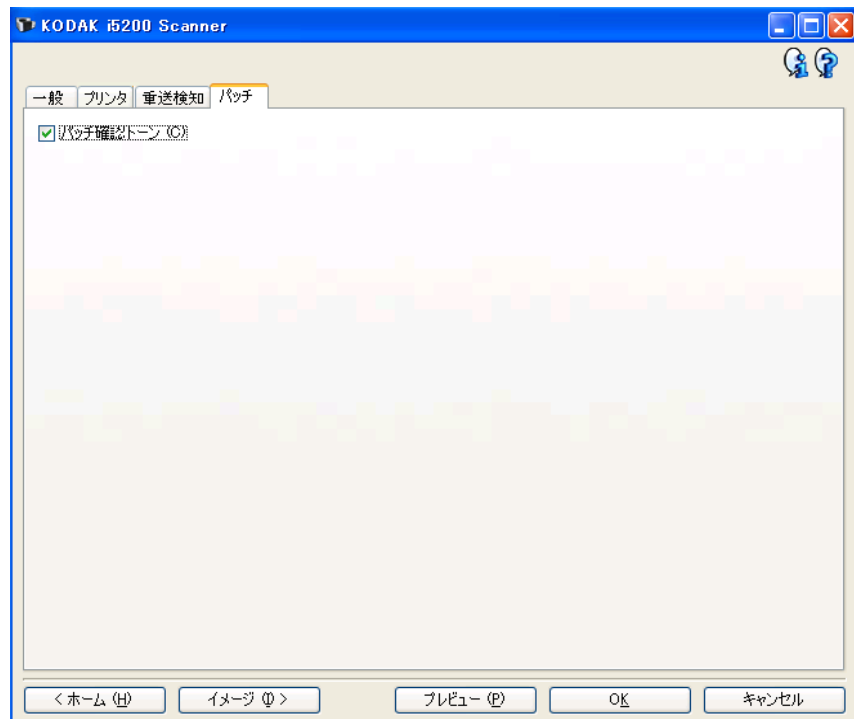
- **再スキャン**：再スキャンが必要な場合は、排紙トレイから上の原稿を入力トレイに戻します（原稿の事前処理に問題がある場合は必ず解決してください）。再スキャンする準備が整ったら、オペレータコントロールパネルの**【再スキャン】**を選択します。プレビューイメージは破棄されます。印字が有効でない場合、スキャナーはすぐにスキャンを開始します。印刷が有効の場合、スキャナーには**【停止】**画面が表示され、スキャンされた次のページに対して**【印刷をスキップ】**が選択できます。その後、スキャナーの**【開始/再開】**ボタンを押して、スキャンを続行できます。

**PC の音源を鳴らす** — 重送検知時に PC から音を鳴らす場合、このオプションを選択します。**【参照】** ボタンをクリックして、再生する .wav ファイルを選択します。

注：PC の音源は、スキャナーの重送検出時と同時に鳴らない場合があります。

## デバイス - **【パッチ】** タブ

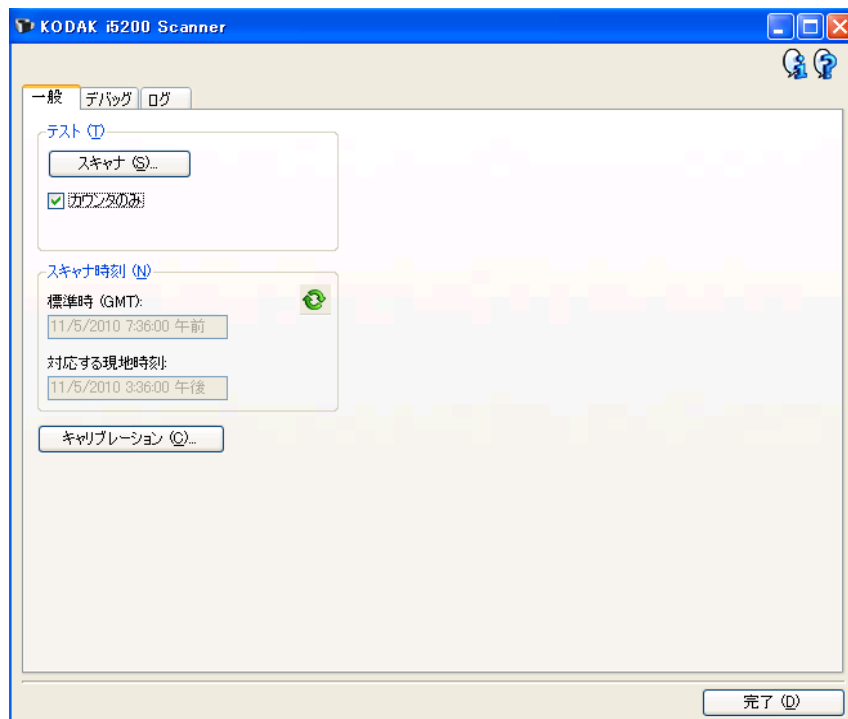
パッチリーダーはあらかじめ定義されたパッチコードを自動的に認識し、ドキュメントレベルの変更を制御できます。詳細については、コダックの文書 A-61599\_ja の「**コダックドキュメントスキャナーのパッチコードの情報**」を参照してください。



**パッチ確認トーン** — パッチが認識されたことを通知するために確認トーンを使用できます。デフォルトでは確認トーンはありません。

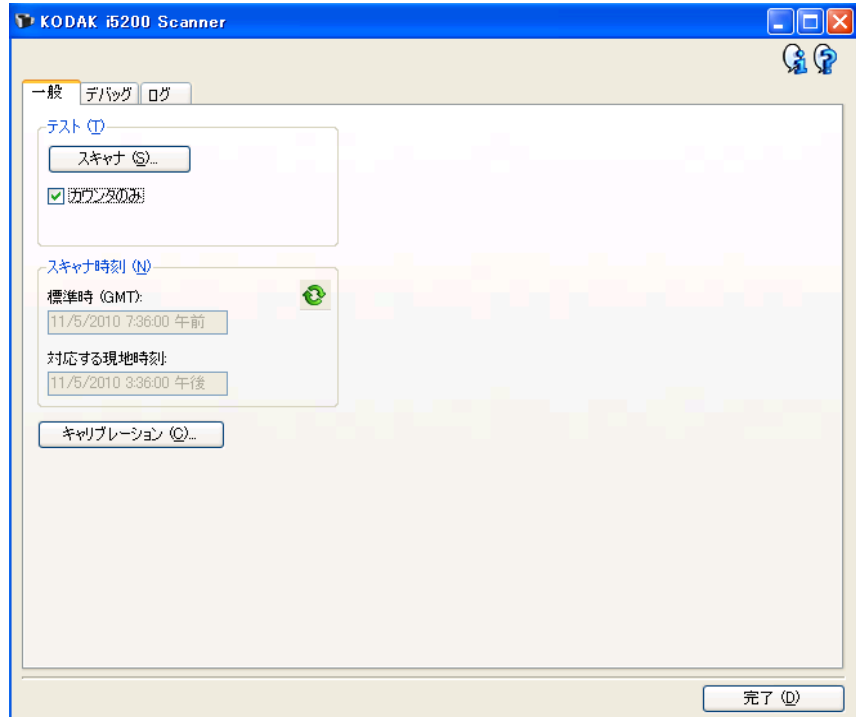
## [ 診断 ] ウィンドウ

このウィンドウではスキャナーの診断機能が使用できます[診断] ウィンドウには[一般]、[デバッグ]、[ログ]のタブがあります。[診断] ウィンドウは、[デバイス設定] ウィンドウの[一般] タブにある[診断] ボタンからアクセスできます。



完了 — [ デバイス設定 ] ウィンドウに戻ります。

[一般] タブでは、スキャナーのテストや、スキャナー時刻の確認ができます。



### テスト

- **スキャナー**：電源投入時のセルフテストと似ていますが、より詳細なテストを行います。このボタンをクリックすると、一連のチェックが行われ、すべてのスキャナーハードウェアが正常に動作しているかどうかを確認されます。
- **カウンタオンリー**：スキャンアプリケーションにイメージを送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、このオプション有効時のスキャンセッション中に実行します。
- **プリンタ**：すべてのインクジェットが機能しているかなど、プリンタの機能をテストします。このテストは、このオプション有効時のスキャンセッション中に実行されます。

注：カウンタオンリーおよびプリンタテストは、スキャンアプリケーションがスキャナーから切断されると、自動的に終了します。

### スキャナー時刻

- **標準時 (GMT)**：スキャナーのグリニッジ標準時間を表示します。
- **対応する現地時刻**：スキャナーのグリニッジ標準時をコンピュータの現地時間帯で表示します。



更新：現在のスキャナー時刻を再表示します。

**キャリブレーション** — [ キャリブレーション ] ウィンドウを表示します。このウィンドウからイメージまたは超音波キャリブレーションを実行できます。

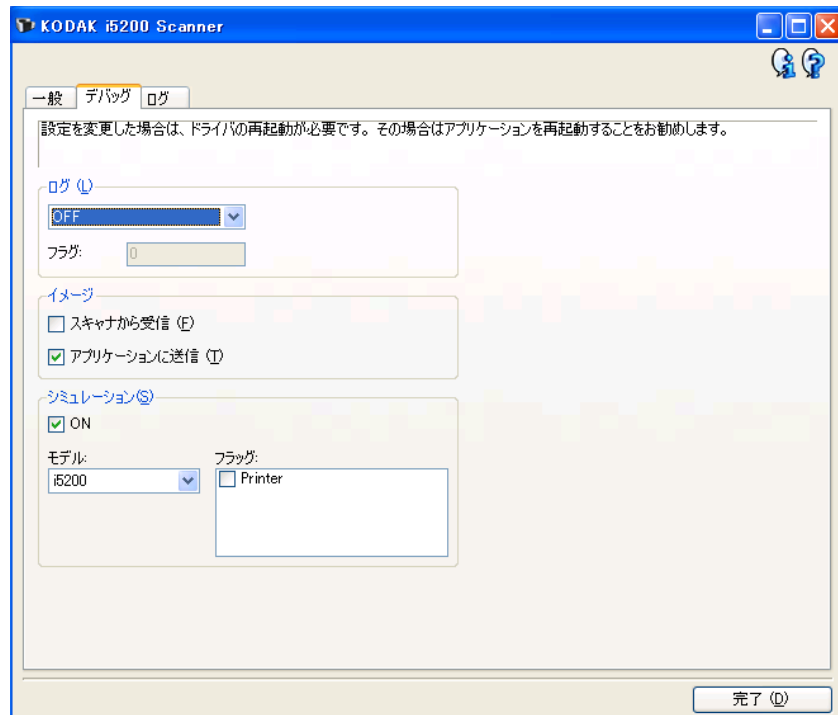
注：キャリブレーションは頻繁に行う必要はありません。サービス & サポート担当者の指示があった場合のみキャリブレーションを実行します。

## 診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブは、スキャナーを使用中に発生した問題を診断する場合に有効にします。サポート担当者からの指示があった場合のみこのオプションを有効にしてください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用され、即座に保存されます。
- このタブでの変更を有効にするには、アプリケーションを再起動する必要があります。



**ログ** — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。[OFF]、[ON]、[カスタム] が用意されています。

### イメージ

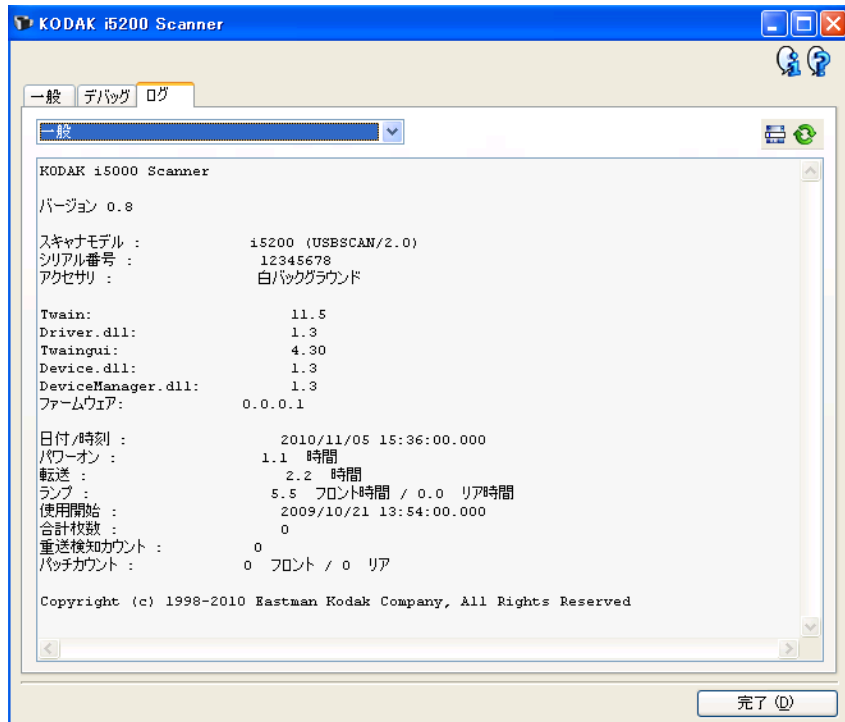
- **スキャナーから受信**：スキャナーから PC に送信されたイメージを保存します。
- **アプリケーションに送信**：スキャナーからスキャンアプリケーションに送信されたイメージを保存します。

**シミュレーション** — 実際にスキャナーを使用しないで TWAIN ドライバ/データソースを使用できます。

- **モデル**：シミュレートするスキャナーのモデルを指定できます。
- **フラグ**：お使いの TWAIN ドライバ/データソースがこのオプションをサポートしている場合、シミュレートするスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが表示されます。

## 診断 - [ログ] タブ

[ログ] タブでスキャナー情報が表示されます。



## ログ

- **一般**：スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストール済みアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ**：スキャナーのログが表示されます。このログはコダックサポート担当者のみがクリアできます。

## [ツールバー] ボタン



**名前を付けて保存**：コダックサポート担当が閲覧できる様にすべてのログを保存します。選択すると [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

- **説明**：ログを保存する問題/理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **参照**：OS の [ファイルを開く] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。このオプションはデフォルトで有効になっています。サポート担当者から指示された場合のみ無効にしてください。
- **保存**：拡張子 .eklog でログファイルを保存します。



**更新**：現在表示されているログを更新します。

# Kodak